

# 高等学校における シラバス作成のポイント

- 学習指導改善のための参考資料 -

栃木県総合教育センター

平成15年11月

# ま え が き

平成15年4月から、高等学校においても新学習指導要領に基づく教育課程がスタートしました。今回の改訂では、生徒の主体的・自律的な学習を推進し、それぞれの能力を十分に伸ばすことをめざした教育を展開することが期待されています。このため、各学校においては、ガイダンスの機能を生かした学習支援体制を整えるとともに、シラバスを通して、教科・科目、総合的な学習の時間、特別活動の学習活動のねらい、内容、授業時間の配当などについて、生徒にわかりやすく示すことが重要になります。また、学校の教育目標や教育計画などについて、保護者や地域の人々に十分説明して理解を得ることも大切です。平成15年3月には「高等学校設置基準」が一部改正され、各学校には、自己点検及び自己評価の結果を公表することや、積極的な情報提供を行うことが求められています。シラバスを公開することは、学校にとって有効な情報提供の一つになります。

一方、シラバスの作成は、教師にとっても学習指導の改善に役立つ有用な資料となります。指導と評価の一体化の考え方にに基づき指導目標、評価の観点、評価規準を明確にしたり、具体的な評価方法を工夫したりするためには、学習指導計画の改善が必要です。シラバスの作成作業を行うことによって、学習指導計画を生徒の学習の視点からとらえ直すことができます。

シラバスの作成にあたっては、各学校の教育目標や生徒の実態をふまえながら、創意工夫を生かすことが重要です。このことから、本資料では、シラバス作成のねらい、学習指導計画との関わり、記載内容、作成の手順などが明らかになるような例を示しましたが、資料の多くを占める各教科等の事例については、教科・科目の特性を生かすため、統一した様式にはしていません。各教科の事例を比較しながら、学校ごとに、生徒と教師双方が利用しやすい形式を工夫してください。

本資料が、各学校におけるシラバス作成と学習指導改善のための参考資料として活用されることを望みます。

平成15年11月

栃木県総合教育センター所長

豊 田 敏 盟

# 目 次

1	シラバスとは	1
2	学習指導計画とシラバスの関わり	2
3	シラバスの内容について	5
4	各教科等のシラバス	
	解説 シラバスの事例作成について	10
	事例	
	国語科「国語総合」	13
	地理歴史科「世界史A」	15
	公民科「政治・経済」	19
	数学科「数学 + 数学A」	22
	理科「理科総合B」	25
	外国語科「英語」	27
	保健体育科「体育」	30
	保健体育科「保健」	32
	家庭科「家庭総合」	34
	情報科「情報A」	36
	農業科「農業科学基礎」	38
	工業科「工業技術基礎」	41
	商業科「ビジネス基礎」	43
	総合的な学習の時間「産業社会と職業」	45

## 高等学校における シラバス作成のポイント

- 学習指導改善のための参考資料 -

平成15年11月

発行 栃木県総合教育センター  
編集 栃木県総合教育センター研究調査部  
〒320-0002 宇都宮市瓦谷町1070  
TEL 028(665)7204  
FAX 028(665)7303  
E - mail : cur-c@tochigi-c.ed.jp

# 1 シラバスとは

「シラバス」とは、カリキュラムを構成する各教科・科目などについて、目標、内容、教材、学習指導計画、評価の概要などを記載した計画書のことをいいます。作成の対象には、総合的な学習の時間、ホームルーム経営、学年経営、学校経営など、各教科・科目以外の領域も含まれます。シラバスは、すでに大学などでは一般的になっていますが、最近では、高等学校においても作成の動きが広がっています。

シラバスは主に生徒向けに作成するものですが、指導方針が生徒に伝えやすくなるなど、教師にとっても役立つ資料です。また、学校の教育活動の内容を保護者や地域の人々などに対して説明する際にも利用できます。

シラバスの果たす役割を対象別に示すと、次のようにまとめられます。



## シラバスの果たす役割

(1) 生徒に対して、学習の到達目標を意識させ、主体的な学習を促す。

活用例：学習のガイダンスや生徒の学習の振り返り

(2) 指導目標（あるいは評価規準）、評価の観点、評価方法を明確化し、学習指導の工夫改善に生かす。

活用例：単元（内容のまとめり）の指導目標、授業の進度、評価方法などの確認  
：教師間の共通理解

(3) 保護者、地域の人々に対して説明責任\*を果たし、学校への信頼を高める。

活用例：地域の中学校の生徒や教職員向けの学校説明  
：学校のホームページでの公開

[ 補足 ] 「説明責任\*」について

高等学校設置基準の一部改正（平成14年3月）が行われ、保護者や地域の人々に、学校の教育活動の目的、内容、方法等をわかりやすく説明することはもちろんのこと、学習指導の成果に対する点検や評価についても説明責任が強く求められています。

## 2 学習指導計画とシラバスの関わり

学習指導計画には、従来の年間指導計画のほか、単元または1単位時間の指導計画や学習指導案などがあります。小・中学校においては、1週間単位の週案などが広く用いられています。シラバスは、それらのうち特に年間指導計画との関連を図ることが重要です。両者とも指導計画の概要という点は共通していますが、年間指導計画が教師用の指導計画であるのに対して、シラバスは生徒向けの学習計画、保護者・地域の人々向けの説明用資料である点に違いがあります。

なお、「県立学校における指導の指針（平成15年3月）」には、「シラバスの作成や年間指導計画の改善等を通じ」、「指導と評価の一体化を図る」ことの重要性が述べられています。また、「指導目標や評価規準\*の明確化に努める」とも示されています。

年間指導計画については、単元（内容のまとめり）ごとに、指導目標や評価の観点及び評価方法の関連を意識できるような形式を工夫することが大切です。これに対して、シラバスについては、学習のねらいや到達目標、学習内容、学習の進め方、学習の振り返りのポイントなどを明記することが重視されます。このようなことから、シラバスの作成を進めるにあたっては、年間指導計画もあわせて改善すると効果的です。

次ページには、年間指導計画を見直す具体的なポイントを例示しました。

### [ 補足 ] 評価規準\*

評価規準は、生徒が学習を通して身に付けるべき資質や能力の質的な側面を表現したもので、原則としておおむね満足できる状況を表します。これらは、生徒の学習活動に応じて、「…しようとする。」「…している。」「…する。」など生徒の学習状況を見取りやすいよう記述するのが一般的です。

平成15年9月、国立教育政策研究所教育課程研究センターより、各科目の指導内容のまとめりごとに「評価規準」及び「評価規準の具体例」が示されました。今後は、これらの資料を参考にして、各学校ごとに具体的な到達目標を設定したり、評価規準と関連付けながら、適切な指導方法及び評価方法を工夫していくことが求められます。

評価規準に関する参考資料  
高等学校における評価規準、評価方法等の研究開発について  
(平成15年9月 国立教育政策研究所教育課程研究センター)

[ 資料 ] 年間指導計画表の改善について

シラバスとの対応関係や学習指導と評価の改善の視点から、具体的な工夫改善のポイントを例示しました。

平成15年度 **国 語** 科 学習指導年間計画表（改善前の例）

科 目	単位数	使用教科書名			学年・組	担当者氏名	印
国語総合	4	国語総合（ 社 ）			年 組		
学 期	1 学期	2 学期	3 学期	年 間	教科書以外の教材等		
予定時数	5 2	5 5	3 3	1 4 0	資料集 国語便覧（ 出版 ）		
実施時数					古典文法（ 出版 ）		
学 期	月	予定 時数	単元・教材名	指導内容(指導のねらい)	実施 時数	実施状況 ・反省	
1	4	1	ガイダンス	・国語総合の特徴と学習方法について理解させる。			
		4	随想「伝えたいと思うから」	・随想を読み、筆者の主張を読み取らせる。			
		3	古文入門 「児のそら寝」	・繰り返し朗読して、古文の面白さを味わわせる。			
		3	「絵仏師良秀」	・歴史的仮名遣い、活用と活用形、係り結びの法則を理解させる。			

( 1 ) 教科の指導の基本方針について

「評価の4観点(国語科は5観点)」、「指導と評価の一体化」の考え方を明確に打ち出すことが大切です。

**改善例 1** 指導と評価についての基本方針を記載する欄を新たに設定し、矢印の部分に位置付ける方法が考えられます。

指導目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成する。</li> <li>・伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばす。</li> <li>・心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深めさせる。</li> <li>・国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。</li> </ul>
指導形態の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話すこと・聞くことについては、グループ活動を積極的に取り入れる。</li> <li>・書くことについては、インターネットの利用にも取り組ませる。</li> </ul>
評価の観 点の趣旨	<p>【関心・意欲・態度】</p> <p>国語や言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図り、進んで表現したり理解したりするとともに、伝え合おうとする。</p> <p>【話す・聞く能力】</p> <p>自分の考えをまとめたり深めたりして、目的や場面に応じ、筋道を立てて話したり的確に聞きとったりする。</p>

	<p>【書く能力】 自分の考えをまとめたり深めたりして、相手や目的に応じ、筋道を立てて適切に文章を書く。</p> <p>【読む能力】 自分の考えを深めたり発展させたりしながら、目的に応じて様々な文章を的確に読み取ったり読書に親しんだりする。</p> <p>【知識・理解】 表現と理解に役立てるための音声、文法、表記、語句、語彙、漢字等を理解し、知識を身に付けている。</p>
評価方法 工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間5回の定期テスト以外に、グループ活動や個別の学習の過程や成果を見る材料としてワークシートを重視する。</li> <li>・生徒の自己評価・相互評価のシートは、生徒自身の学習の振り返りに生かす他、成績の参考資料とする。</li> </ul>

(2) 学期・月・単元（内容のまとめり）ごとの指導計画の項目について

学期・月ごとの学習内容の配分を示すだけでなく、単元ごとに、目標(ねらい)、具体的な評価項目、指導上の留意点を対応させる必要があります。

- 改善例 2 「単元・教材名」
- ・学習内容、活動がイメージしやすいように、題材名を記載するだけでなく、主な学習のテーマや活動形態などを示す。
  - ・「学習内容、学習活動」に関する項目に改める。

- 改善例 3 「指導内容（指導のねらい）」
- ・到達目標などを示す。
  - ・「評価」に関する項目に改め、評価規準の具体例などを示す。
  - ・国語では、「A 話すこと・聞くこと」、「B 書くこと」、「C 読むこと」、「言語事項」の中から、単元で重点的に取り扱う領域（及び関連領域）を新たに欄を設けて明示する。

- 改善例 4 「評価」
- ・「評価規準の具体例」、「評価場面及び評価方法」などを記載する欄を新たに設けて明示する。
  - ・提出物や小テストなどの評価方法を具体的に示す。

(3) 参考資料について

千葉県の教育庁学校指導部指導課の通知（平成14年10月29日付け教指第1234号）と参考事例を Web サイトで見ることができます。シラバスと学習指導計画の関連等を検討する際の参考になります。

学習指導計画に関する参考資料  
 千葉県教育委員会 「高等学校シラバス参考事例集」  
<http://www.edu.pref.chiba.jp/zigyousylmain.htm>



### 3 シラバスの内容について

シラバスには定まった形式はありません。作成にあたっては、各学校の現状や課題をふまえ、活用しやすい形式を決定する必要があります。

#### (1) 主な記載内容について

シラバスに記載する内容は、学校ごとあるいは教科ごとに工夫し、教師間の共通理解を図ることが大切です。

##### 学習のねらい、到達目標、具体的な評価項目について

各教科・科目の目標については、学習指導要領に示されています。また、評価については、いわゆる「評価の4観点」の趣旨をふまえ、評価規準などを用いて、目標に準拠した評価を行います。

シラバスに指導目標や評価規準などを示す際には、記載項目を精選したり、表記を生徒向けにしたりするなど工夫して、生徒が到達目標や学習の振り返りのポイントをとらえられるようにする必要があります。

##### 評価方法について

評価については、四つの観点ごとに適している評価方法が異なっているので、評価の場面や時期などに応じて、適切な評価方法を取り入れたシラバスを作成することが大切です。

たとえば、評価を行う場面としては、学習後のみならず、学習の前や学習の過程における評価が重要です。また、評価の時期としては、学期末や学年末だけでなく、目的に応じ、単元ごと、時間ごとなどにおける評価を工夫することが考えられます。さらに、具体的な評価の方法としては、ペーパーテストのほか、観察、面接、質問紙、作品、ノート、レポート等を用い、その選択・組合せを工夫することが大切です。これらのうち、テストや提出物は、生徒にとって最も関心の高い評価方法です。テストの計画や提出する課題を生徒に示す場合には、生徒が取り組むべき具体的内容を明示することが大切です。

##### 学習内容・学習計画について

学期、月、単元のまとまりごとに、学習内容をわかりやすく示すことが大切です。学習のねらいや到達目標などの項目を位置付け、学習内容との関連を明らかにすることも重要な視点です。

シラバスは年度初めに示するのが一般的ですが、年間指導計画と実際の授業の進捗にはずれが生じることがあります。その場合には、学期を一つの単位ととらえて、授業の進捗を修正し、学期ごとに学習計画を配布する方法もあります。

## (2) 参考資料について

先進的に取り組んでいる学校の事例だけでなく、埼玉県、千葉県、神奈川県、大阪府などの各教育委員会などが作成した形式もWebサイトで見るができます。

### シラバスに関する参考資料

- ・ 埼玉県総合教育センター 「シラバス」  
[http://www.center.spec.ed.jp/c/cb\\_ctn.html](http://www.center.spec.ed.jp/c/cb_ctn.html)
- ・ 千葉県教育委員会 「高等学校シラバス参考事例集」  
<http://www.edu.pref.chiba.jp/zigyousylmain.htm>
- ・ 神奈川県立総合教育センター 「高等学校シラバスの作成」  
<http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/karisen/syllabus/index.html>
- ・ 大阪府教育センター 「指導と評価の年間計画(シラバス)」  
<http://www.osaka-c.ed.jp/kak/kyoka/shirabasu/nenkankeikaku.htm>

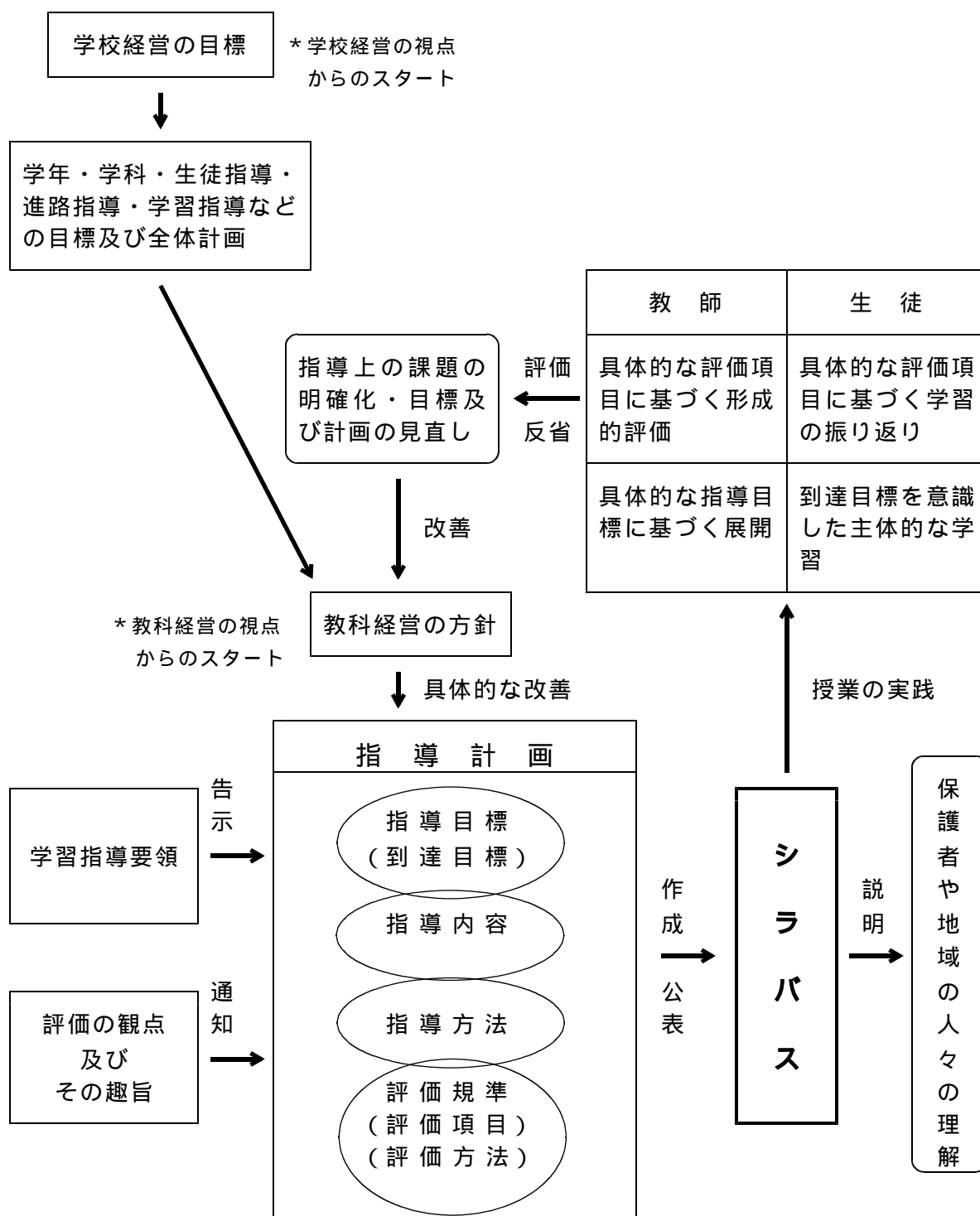
## (3) 作成及び活用の手順について

シラバス作成及び活用は、それ自体が学習指導を改善する過程の一部となります。

また、学校経営の視点から、シラバスの作成や活用を通して学習指導の成果に対する評価を行い、その結果をまとめて情報を公開するなどして、保護者、地域の人々に対して説明責任を果たすことが大切です。また、教科経営の視点からは、生徒の主体的な学習を促すことや、教師間の共通理解を深め教師一人ひとりの指導力の向上を図ることなどが重要です。

次のページに示した「シラバス作成・活用の全体像」をイメージしながら、シラバスを作成し、実践を通して効果的で活用しやすいものに改善していくことが大切です。

# シラバスの作成及び活用の全体像



#### (4) シラバスの評価について

シラバスを評価する際には、教師による評価だけではなく、活用の主体である生徒による評価も大切です。シラバスの評価方法や評価項目を明らかにしておくことが必要です。

#### シラバスの評価方法及び評価項目（例）

##### 【教師の評価】

評価方法：年間指導計画表の評価及び反省、ガイダンスにおける生徒の反応、学習相談等の面接、提出物の評価、テストの結果（平均点、理解の十分な生徒の把握、理解の不十分な生徒の把握）、学習状況を把握するためのアンケートや調査

年間指導計画表やシラバスに示した内容について、教員間で共通理解が図られているか。

- ・主な指導内容
- ・指導のねらい、評価規準、到達目標
- ・評価の基準や方法
- ・副教材の扱い、提出物（レポートや課題等）
- ・テストの範囲や出題方針

シラバスを生徒に説明し、その内容を確認させる場面を設定しているか。

おおむね計画どおりの進度で授業が行われているか。

レポートや課題等が生徒に理解され、計画どおり提出されているか。

テストの範囲や出題方針などが生徒に理解され、設定した到達目標が生徒に意識されているか。

生徒が十分な家庭学習の時間を確保しているか。

生徒が計画的に家庭学習を進めているか。

##### 【生徒の評価】

評価方法：自己評価票（ワークシートを含む）により判断する。

授業の方針や進度が把握できたか。

テストの範囲や出題方針、提出物を確認し、学習の到達目標を意識しながら授業を受けることができたか。

家庭学習で取り組む必要がある課題などが把握できたか。

テスト前やふだんの日に、家庭学習の計画を立てるなど、主体的に取り組むことができたか。

# 各教科等のシラバス

## 事 例

平成 1 5 年 1 1 月 版

\* ここに示した事例は、栃木県総合教育センターの指導主事が作成したものです。

## 解説 シラバスの事例作成について

### (1) シラバスを活用する目的

新たにシラバスを作成する際に、既存の資料との違いをどのようにとらえたらよいか問題となります。学校によっては、学習の手引きを改訂し、シラバスとして活用する場合があります。総合学科や単位制高校では、科目（講座）案内などのガイダンスの資料としてシラバスを活用することもあります。シラバスを活用する目的はさまざまですが、生徒の視点に立った場合、おおむね次のようなことが想定されます。

科目（講座）の選択や履修のための参考にする。  
各教科・科目の学び方や学ぶ心構えなどを確認する。  
課題提出やテストのスケジュールをもとに、計画的に学習を進める。  
学習の進度や目標の達成状況をチェックし、成果と課題を把握する。

、 を主な活用の目的とした場合、学習の手引きや科目案内などの既存の資料とシラバスは似た内容となります。本資料では、 の目的で利用できるようなシラバスの事例作成に取り組みました。

### (2) 作成上の工夫及び留意点

本資料では、各教科・科目等の事例を作成する際に、以下のような点に留意したり、工夫を試みたりしました。

- ・ 学習指導要領とその解説だけでなく、教科書も参考にする。
- ・ 生徒が学習計画や展開等の見通しをもつことができるように、学習内容・活動、課題、提出物やテストについて、できるだけ具体的に記述する。
- ・ 年間指導計画等の予定内容に関しては、実施の過程で変更することが想定されるため、年間の学習計画をまとめて示す方法だけでなく、学期ごとに配布する方法も検討する。
- ・ 学習計画の中で、学習のねらいや到達目標を示す場合、学習内容との対応が明らかになるよう形式を工夫する。
- ・ 生徒がシラバスを用いて学習を振り返れるように、チェック項目やチェック欄を設定する。

### (3) 事例作成のための様式例

本資料では、次に示すような様式例をもとに事例を作成しました。シラバスの記述については、教科・科目による違いがあらわれやすい項目や、学校の特色が強く反映する項目があります。このようなことから、それぞれの事例は、この様式を基本に作成していますが、科目によって項目を入れ替えたり、項目名を変えています。また記載内容や記述の仕方についても、それぞれの事例ごとに工夫を試みました。各学校で作成を進める際には、シラバスの形式をある程度統一する必要があります。各事例を比較し、学校にあった形式を選択し参考にしてください。

(シラバス作成のための様式例)

## 科「 」シラバス

### 1 教科・科目の担当者からのメッセージ

科目の特色等を記述したり、科目選択の際の留意点などを記述する。

### 2 履修に関すること

- ・単位数、履修学年、必修や選択などの履修区分

### 3 使用する主な教材

- ・教科書など予め購入するもの、授業で配布するもの

### 4 学習のねらい、目標、到達目標

学習指導要領に示されている目標をもとに、生徒にとって理解しやすい表現を工夫する。生徒の状況をふまえ、授業をとおして身につけてもらいたい最低限の資質、能力、態度、姿勢などを具体的に書く方法もある。

### 5 主な学習内容・活動、授業の進め方

科目の全体的な特徴を書く。

- (例)・国語 現代文、古典(古文、漢文)などの内容の構成
- ・理科 観察、実験、課題研究など
  - ・英語 活動の種類(リーディング、ライティングなど)
  - ・体育 教科内の科目や種目の系統や関連
  - ・職業系の専門科目 実習の分野、実習の進め方

### 6 学び方のアドバイス、授業を受ける心構え

普段からどのようなことを心がけて学習に取り組んだらよいかを記述する。授業を受ける際の基本的な心構えや注意事項を書いたり、家庭学習など自主的な取り組みを促すような記述を工夫したりする。

## 7 評価

評価にあたっては、知識や技能などの把握しやすい観点だけでなく、複数の観点に基づく評価を重視する。また、意欲的に授業に参加したり、テストや課題に取り組むことができるように評価方法を具体的に記述することが大切である。

なお、評価の観点や評価方法を記載するほか、年間指導計画と同様に、学習計画に評価項目（評価規準）の欄を設定し、具体的な学習内容との関連を示す方法もある。

## 8 学習計画

学期 学習計画表

月	主な学習内容・活動	学習のねらい・到達目標 ・評価項目（評価規準）	学び方のアドバイス 課題、テスト範囲
	（例）学習のガイダンス	（例）授業の進め方を把握する。	（例）予習、復習の方法を確認する。
	（例）テーマ「 インターネットを用いて調べよう。	（例）テーマに関連するキーワードに着目し、情報を収集・整理できる。	（例）各自、レポートを作成し提出する。
	（ポイント1） 単元（内容のまとめ）ごとに区切る。	（ポイント2） 到達目標は、「 できる。」 というように記述するのに対して、評価規準に示されるような行動目標については、「 する。」「 しようとする。」などとして記述を工夫する。	（ポイント3） 自主的な取り組みを促すような内容を記載する。
提出物：形式、提出期限、評価方法等を記載する。			
テスト：期日、出題方針、補充学習や発展学習の方法等を記載する。			

（補足）作成やその後の改善にあたっては、生徒の意見を取り入れ、絵や図表等を適切に挿入するなど、読みやすく、視覚的にとらえやすいように編集することも大切です。



## 国語科「国語総合」シラバス

中学校国語の内容を受けた基礎的な内容を学びます。  
「現代文」「古典」に分けて週2時間ずつ学びます。  
平成18年からの大学入試センター試験「国語」は「国語総合」の領域を踏まえて出題されます。

単 位	4	履 修 学 年	1	履 修 区 分	必 修
学習内容	現代文	明治以降の「随想」「小説」「評論」「韻文」(短歌、俳句、詩)等を読解します。討論や発表をしたり、意見文や小論文を書いたりします。社会人として必要な言語能力を身に付けるための学習をします。			
	古文	日本の古典の読解を通して、生き方・考え方を学びます。古文を理解するために、修辞法や文法も学びます。			
	漢文	日本文化に深い影響を与えた中国の古典を学びます。漢文を学ぶことは現代文を学ぶことにつながります。			
学習のねらい	国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めます。思考力を伸ばし心情を豊かにし、言語感覚を磨きます。言語文化に対する関心を深め、現代の文章や古典を読み、読書に親しむ態度を身に付けます。				
使用教材等	教科書 副教材 辞書	国語総合( 社) 国語便覧( 社) 古典文法( 社) 漢文テキスト( 社) 現代文問題集( 社) 古典問題集( 社) 国語辞典 古語辞典 漢和辞典			
評価の観点	【関心・意欲・態度】 国語や言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図り、進んで表現したり理解したりするとともに、伝え合おうとする。 【話す・聞く能力】 自分の考えをまとめたり深めたりして、目的や場面に応じ、筋道を立てて話したり的確に聞き取ったりする。 【書く能力】 自分の考えをまとめたり深めたりして、相手や目的に応じ、筋道を立てて適切に文章に書く。 【読む能力】 自分の考えを深めたり発展させたりしながら、目的に応じて様々な文章を的確に読み取ったり読書に親しんだりする。 【知識・理解】 表現と理解に役立てるための音声、文法、表記、語句、語彙、漢字等を理解し、知識を身に付けている。				
評価方法	授業中に行う諸君の自己評価・相互評価は、諸君自身の学習の振り返りに活かす他、学期毎の評価の参考にします。 【第1学期、第2学期の評価方法】 中間テスト・期末テスト・小テストの成績、ワークシート・学習プリント・ノート・週末課題等の提出物の内容、学習活動への参加態度等を総合的に評価します。 【第3学期の評価方法】 第3学期の学年末テスト等の成績や提出物等に、第1・2学期の成績を加え、学年の成績を総合的に評価します。				

家庭学習	授業は予習を前提に進めます。家庭学習の習慣を身に付けよう。				
	予習	【現代文】本文音読、意味調べ 【古典】本文音読、本文筆写、書き下し文(漢文)意味調べ、口語訳			
	復習	予習の際の不明点、授業での学習事項が理解できたか確認しよう。			
テスト	・定期テスト対策は、遅くとも1週間前から始めよう。 ・不明な点は質問しよう。 ・ノート、参考書等を見て理解したつもりになったり、丸暗記をしたりするのはなく、人に説明できるくらいの理解をしよう。 ・学習のポイントは、漢字の読み書き、語句の意味、キーワード・キーセンテンスの説明、言い換え表現、指示語、心情把握、作者、作品、文学史、古文単語の意味、口語訳、文法的説明、修辞法、書き下し文、返り点、訓点、句法、故事成語の意味など。				

### 学習計画

学習のねらいの各項目がチェックできるように示してあります( )。テストの前に自分の学習の取り組みを振り返るために活用してください。  
 定期テストの期日が発表されたら、シラバスに記入してください。  
 学習の方法がわからない場合、学習の状況が思わしくない場合、さらに学習を発展させたい場合は学習相談を受けてください。

### 第 1 学期

月	学 習 内 容	学習活動や学習のねらい	評価方法・試験		
4	国 学習のガイダンス	・授業の進め方、学習方法、テストの出題方針を確認します。	1 学期中間テスト		
	現 表現の実践 ・自分の大切なものの紹介文を書く。 ・スピーチをする。	・書き言葉と話し言葉の違いに注意して、分かりやすく人に伝えることを工夫します。 ・スピーチ原稿をまとめます。 ・スピーチをします。		作品 実技テスト 自己・相互評価	
	古 評論(一) ・知的創造のヒント 表現の実践 ・文章を要約する。	・評論文を読んで、筆者の主張をとらえます。  論の展開に従って、文章を読み取り、要約する力を養います。 繰り返し朗読して、古文独特の言葉や表現を理解します。		ワークシート  ワークシート	
	現 古文入門 ・児のそら寝 ・絵仏師良秀 ・頼宗といふ笛吹き	古語辞典の引き方に慣れます。 用言の働きを理解します。		小テスト	
5	漢 小説(一) ・羅生門	小説中の表現の工夫や描写から、登場人物の心理を考えます。	ワークシート 小テスト 小テスト		
	漢 漢文入門 ・訓読に親しむ(一) ・訓読に親しむ(二)	漢文の読み方に慣れ、日本語の中に生きる中国の言葉との関連を知ります。 漢文を正しく訓読できるようにします。			
定期テスト(返却含む) 月 日( )		テスト前の学習法を参考にして、学習状況や苦手な内容を確認しよう。	学習相談カード (該当者・希望者) 自己評価、ノート		
6	現 評論(一) ・水の東西	評論文の特徴を学び、東西の比較文化に関する小論文を書きます。 古典の世界の有職故実や、習慣等について理解し、古人の思いを想像します。 主な助動詞の働きを理解します。	1 学期期末テスト		
	古 物語を読む ・竹取物語 おひたち かくや姫の嘆き			ワークシート 作品  小テスト	
	現 小説(一) ・一瞬を生きる			小説を読み、各自の考えを發表します。	ワークシート 自己評価 小テスト
	漢 故事成語 ・漁夫之利 ・狐借虎威 ・守株			漢文の読み方に慣れ、故事成語の成り立ちや意味を理解します。	
定期テスト(返却含む) 月 日( )		テスト前の学習法を参考にして、学習状況や苦手な内容を確認しよう。	学習相談カード (該当者・希望者) 自己評価、ノート		
7	現 表現の実践 ・ディベートで討論する	・話すこと、聞くことについて意識し、それらの力を養うとともに、意見の述べ方について学びます。 ・作戦シートに立論、反駁予想等を書きます。 ・反対意見を考慮した意見文を書きます。	ワークシート 自己・相互評価 ワークシート 作品		
	古 ・小論文を書く ・伊勢物語 芥川			歌物語や和歌の修辞法について理解します。	
夏休み	課題として、読書感想文、現代文問題集、古典問題集を出します。2学期始業式のHR時に、国語係に提出してください。 課外授業では、「古典文法」「古典文法ワークノート」「古語辞典」を使い、助動詞を学習します。 ワークノートを1日2ページずつ学習しますので、確実に予習をして臨んでください。				

# 地理歴史科「世界史 A」シラバス

## 授業の担当者からのメッセージ

世界史 A では、世界の歴史の大きな流れを近現代史を中心に学びます。私たちの前には民族問題、人口問題、環境問題など解決しなければならない地球規模の問題が山積しています。これらの問題を自覚し、解決の方向を見いだすために、私たちは人類の歴史から学ぶ必要があります。歴史の流れを理解し、どのような力が歴史を動かしてきたのかをつかみましょ。そして、単に過去のできごとを学ぶだけでなく、現代の世界がなぜそうなっているかを考え、地球的課題の起源や背景を追究し、その解決のためにはどうすればいいのかを考えていきます。

具体的には、1・2 学期に歴史的に考察する基礎を身につけ、3 学期には、各自が見つけたテーマを調べ、発表し、レポートにまとめるなどの課題追究学習を行います。

### 1 履修にかかわること

単位数	2	学年	1	学科・コース	全	区分	必修
-----	---	----	---	--------	---	----	----

### 2 使用する主な教材

購入が必要なもの	・教科書 (A 社「世界史 A」) ・資料集 (C 社「世界史総合図説」...主題別のまとめ、地図、年表、図等からなる)	・歴史地図帳 (B 社「歴史地図帳」)
授業で配るもの	・整理プリント (授業の要点を記入)	・資料プリント (補足資料)

### 3 主な学習内容と目標

近現代史を中心とする世界の歴史を、日本の歴史と関連付けながら理解します。  
現代の人類が直面している課題を政治、経済、社会、文化、生活など様々な視点から考察します。  
世界の構造や成り立ちを歴史的な視野から考察する力をつけます。

### 4 年間の学習計画等

学期	学習内容	月	学習のねらい	備考	テスト範囲
第 1 学期	1 諸地域世界と交流圏	4	ユーラシア各地で形成された諸地域世界について、それぞれの歴史的特質を大局的にとらえます。世界の一体化につながるユーラシア規模の交流圏が成立していったことをとらえます。	・小テストを実施します。	1 学期中間テスト
	(1)東アジア世界		(1) 東アジア世界の文化・社会の特質を、風土、生活、言語、思想などの視点からとらえます。		
	(2)南アジア世界		(2) 南アジアに宗教と社会制度を共通の基盤とした地域社会が形成されていったことをとらえます。		
	(3)イスラーム世界		(3) 西アジアの乾燥・半乾燥地帯を舞台に形成され拡大していったイスラーム世界の基本的特質をとらえます。		

第1学期	(4)ヨーロッパ世界	5	(4) ギリシア・ローマ文明の伝統とキリスト教によって一つの文明を形成したヨーロッパ世界の特徴を、広い視野からとらえます。	・4つの交流圏の中から2つを選択して学習します。 ・ビデオ視聴を行います。 ・小テストを実施します。	1 学期 期末 テスト
	(5)ユーラシアの交流圏		(5) 8世紀以降、内陸アジアやユーラシア南縁部の海域を中心に大交流圏が成熟したことなどをとらえます。 アフリカ東岸から南シナ海に至る海の大交流圏が形成されたことをとらえます。 内陸アジアのネットワークの概要、諸民族の交流のようす、モンゴルによるユーラシアの一体化をとらえます。		
	2 一体化する世界	6	16世紀以降の、ヨーロッパ主導による世界の一体化と、それに伴って世界が変わっていくようすをとらえます。		
	(1)大航海時代の世界	7	(1) ヨーロッパ人の海外進出などを中心に、16世紀の世界の一体化への動きをとらえます。		
第2学期	(2)アジアの諸帝国とヨーロッパの主権国家体制	7	(2) アジアの諸帝国とヨーロッパに成立した主権国家体制の特色、世界商業の進展などを中心に、17・18世紀の世界のようすをとらえます。		2 中間
	【課題・提出物等】 ・単元ごとに整理プリントを配付します。単元終了時に提出してもらいます。(8枚程度) ・ビデオ視聴プリントを配布します。視聴後に提出してもらいます。 ・定期テスト後にノート提出してもらいます。 ・夏休みの課題として「歴史新聞」を作成し、2学期のはじめに提出してもらいます。				
【第1学期の評価方法】 ・中間テスト、期末テストの成績、小テスト(2回程度実施)、各プリント、ワークシート、ノートなどの提出物、学習活動への参加の態度などで評価します。 ・学期全体の評価は定期テスト及び小テスト、プリントなどの提出物、学習活動への参加状況を総合的に判断して行います。					
第2学期	2 一体化する世界	9	(3) 18世紀以降、西ヨーロッパ諸国とアメリカ合衆国に産業社会が成立し、国民国家の形成が進行したことをとらえます。	・夏休み課題「歴史新聞」提出。 ・小テストを実施します。	2 学期 中間 テ
	(3)ヨーロッパ・アメリカの諸革命		(4) アジア諸国の内部で進行していた変化とヨーロッパの進出による変貌、19世紀の世界の一体化とその特徴をとらえます。		
	(4)アジア諸国の変貌と日本	10	一体化した現代世界の特徴を大局的にとらえます。 地域紛争と国際世界、科学技術と現代文明などに関する主題学習を行います。	・小テストを実施します。 ・ビデオ視聴を行います。	2 学期 期末 テ ス ト
	3 現代の世界と日本	11	(1) 19世紀末から20世紀初頭にかけて欧米諸国や日本に新しい社会が出現した意味を、人類史的枠組みの中でとらえます。	・小テストを実施します。	
(1)急変する人類社会	12	(2) 二つの世界戦争を中心に20世紀前半の国際政治の流れを大きくとらえ、現代の戦争の特徴と平和の意義などについても考えます。	・ビデオ視聴を行います。 ・小テストを実施します。		学 年 末
(2)二つの世界戦争と平和	12	(3) 第二次大戦後の東西両陣営間の対立や、民族独立運動の展開を学び、1970年頃までの世界の政治・経済の動向をとらえます。			
	(3)米ソ冷戦とアジア・アフリカ諸国				

<p><b>【課題・提出物等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元ごとに整理プリントを配付します。単元終了時に提出してもらいます。(8枚程度)</li> <li>・ビデオ視聴プリントを配布します。視聴後に提出してもらいます。</li> <li>・定期テスト後にノート提出してもらいます。</li> <li>・夏休み課題の「歴史新聞」を2学期のはじめに提出してもらいます。</li> </ul>					
<p><b>【第2学期の評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中間テスト、期末テストの成績、小テスト(2回程度実施)、夏休み課題、各プリント、ワークシート、ノートなどの提出物、学習活動への参加の態度などで評価します。</li> <li>・学期全体の評価は定期テスト及び小テスト、プリント・夏休み課題などの提出物、学習活動への参加の状況を総合的に判断して行います。</li> </ul>					
第3学期	3	現代の世界と日本	1	(4) 戦後世界のあり方が1970年代以降大きく変わってきたことを学び、これからの国際社会における日本の役割について考えます。	学年末テスト
		(4)地球社会への歩みと日本			
		(5)地域紛争と国際社会	2	(5) 冷戦終結後の世界で起こった地域紛争の原因や歴史的背景を研究し、国際社会の変化や現代国家の課題などについて考えます。	
	(6)科学技術と現代文明		3	(6) 現代の科学技術が人類に与えた影響やこれからの課題について研究し、人類の生存と安全などについて考え、現代文明の未来を展望します。	
学期	<p><b>【課題・提出物等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元ごとに整理プリントを配付します。単元終了時に提出してもらいます。(3枚程度)</li> <li>・定期テスト後にノート提出してもらいます。</li> <li>・第3学期の3-(5)、(6)については、成果をまとめたレポートや評価票を3月中旬までに提出してもらいます。</li> <li>・調べ学習の成果発表に関する相互評価票。</li> <li>・各自が追究した成果に関するレポート。</li> <li>・課題追究やレポート作成の過程に関する自己評価票。</li> <li>・一年間の学習状況を振り返る自己評価票。</li> </ul>				
	<p><b>【第3学期の評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学年末テストの成績、小テスト(1回程度実施)、プリント、ワークシート、ノートなどの提出物、発表の内容や工夫、学習活動への参加の状況などで評価します。</li> <li>・学期全体の評価は定期テスト及び小テスト、発表学習の内容、課題を追究したレポートの内容、学習活動への参加態度などを総合的に判断して行います。</li> </ul>				
<p><b>【年間の学習状況の評価方法】</b></p> <p>次ページに示した4つの観点から評価した第1学期の成績、第2学期の成績、第3学期の成績を総合し、年間の学習成績として評価します。自己評価も加味します。</p>					

## 5 評価の観点および内容、評価方法

皆さんの学習状況は、「関心・意欲・態度」「思考・判断」「資料活用の技能・表現」および「知識・理解」の4つの観点で評価します。観点別の評価の内容と方法は下の表を参考にしてください。

評価の観点及び内容		評価方法
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近現代史を中心とする世界の歴史に関心と問題意識を高めているか。</li> <li>・意欲的に追究しようとするとともに国際社会に生きる国家・社会の一員としての責任を果たそうとしているか。</li> </ul>	学習活動への参加の仕方及び態度 ワークシート 単元ごとのプリント ビデオプリント ノート 自己評価票 小テスト レポート
思考・判断	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近現代史を中心とする世界史の知識をもとに、人類の課題を世界的視野に立って多面的・多角的に考察しようとしているか。</li> <li>・国際社会の変化を踏まえ公正に判断しているか。</li> </ul>	定期テスト レポート ワークシート 単元ごとのプリント ビデオプリント 発表の内容や方法
資料活用の技能・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用し、歴史的事象を追究する方法を身に付けているか。</li> <li>・追究し、考察した過程や結果を適切に表現しているか。</li> </ul>	定期テスト レポート ワークシート 単元ごとのプリント ビデオプリント 発表の内容や方法
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前近代について、諸地域世界の歴史的特質と交流の様相を把握しているか。</li> <li>・近現代を理解するのに必要な基本的知識を身につけているか。</li> <li>・近現代史を中心とする世界の歴史について、我が国の歴史と関連づけながら理解し、その知識を身につけているか。</li> </ul>	定期テスト 小テスト

## 6 学び方のアドバイス

<p>(1)確かな学力を身につけるためのアドバイス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界史の学習とは、細かな年代や人名を覚えることではありません。基本的な事柄をおさえながら、それぞれのできごとにはどのような背景があるのか、他とどのようかかわりを持っているのか、日本とのつながりを含めて、世界史の中でどのように位置づけられるのかなどを常に意識しましょう。</li> <li>・歴史の見方・とらえ方は一つとは限りません。常に多角的にとらえるように意識しましょう。</li> <li>・見たり、聞いたり、話したりするなかで自分の考えをまとめ、クラスで発表したり、文章にして発表したりするよう心がけましょう。</li> </ul> <p>(2)授業を受けるに当たって守ってほしい事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業がもっとも大切なものです。みなさんと私の真剣勝負の場だというつもりで臨んでください。そして、できるだけ休まないよう心がけてください。</li> <li>・教科書はもちろん、副教材も必ず用意し、指示がなくとも自分で調べてみるようにしてください。</li> <li>・ノートをとる際は、板書事項を写すだけでなく、自分が気づいたことや考えたこと、他の人の意見なども記入するなど工夫しましょう。そのノートはきっとあなたの宝物になるはずです。</li> <li>・「習うより慣れる」の言葉が示すとおり、自分から積極的に取り組むことで得られるものが必ずあるはずです。</li> </ul>
--

# 公民科「政治・経済」シラバス

## 1 授業の基本方針

現在、国内はもちろん国際社会でも、政治や経済の様々な制度やしきみが、日々刻々と変化しています。そのことを皆さんはどれくらい知っていますか。その変化の中でこれからの社会を生きていく皆さんには、この国で、この世界で、いま何が起きているのかをきちんと知ってほしいと思います。

高校生は、人生の中で最も多感で、価値観を形成する上で重要な時期です。この授業は、将来の日本を支え、世界を背負って立てる人間を育てようという気持ちをもって、次の方針のもとに行います。

新聞やテレビなどで報道される時事的な問題など、具体的な事例を数多く取り上げ、現代の政治、経済、国際関係に関する基本的な概念や理論を理解するためのキーポイントを明確に示し、わかる授業を行います。

講義式、グループ学習、ディベートなど、様々な学習活動を行い、発表や質疑応答などを通して、ものごとを多面的・多角的に考え、公正に判断し行動できる力を養います。

情報の収集・選択、レポートのまとめ方など、課題追究の方法を身につけ、将来、社会科学を専門的に学ぶ大学などへの橋渡しができるよう、内容の深化・発展を図ります。

## 2 授業を受けるにあたっての留意事項

よい授業は、教師と生徒の協働によって成り立つものです。そして授業の主役は生徒の皆さんです。よりよい授業にするために、次の事項に留意してください。

日頃から新聞やテレビのニュースに関心を持ち、現代の政治、経済、国際関係の動向について主体的に考察しようとする態度を身につけましょう。

グループ学習、ディベートなどの考察する場面では、他人の意見や考えを尊重し、お互いに協力し合いましょう。また、ワークシート、レポート、ノートなどの提出期日を必ず守りましょう。

客観的な資料に基づいて政治や経済の諸課題を考察し、諸課題について自分なりの望ましい解決の在り方を適切にまとめ、発表する態度を身につけましょう。

## 3 評価（評定）の観点、内容及び方法

皆さんの学習状況は、次の内容及び方法で評価します。

### 定期テスト、小テストの成績

基礎的・基本的事項を確認する小テストを内容のまとめりごとを実施します。また、定期テストでは思考力・判断力・表現力を問う論述問題も出題します。

課題レポート、ノートなどの提出状況や授業への出席状況

### 課題レポート

政治に関して、「1 現代の政治」の学習、新聞やテレビのニュースなどで興味・関心を持った事柄を3つ取り上げ、自分で調べた内容と自分の意見や感想を所定の様式でまとめ、6月末日までに提出します。

### 課題レポート

経済に関して、「2 現代の経済」の学習、新聞やテレビのニュースなどで興味・関心を持った事柄を3つ取り上げ、自分で調べた内容と自分の意見や感想を所定の様式でまとめ、11月末日までに提出します。

また、授業に積極的に参加しようとする意欲や態度、提出物の内容や出席状況など、学習の過程を重視します。

課題追究学習の成果（考察した過程や結果のまとめと発表）

どのような資料を収集・選択して、どのような結論を得たのかを適切にまとめ、発表できたかを評価します。教師による評価だけでなく、生徒の自己評価と相互評価も取り入れます。

#### 4 学習計画及び学習内容

	学習項目	月	学習の内容
学 期	「政治・経済」の学習について		「政治・経済」を学ぶ意義や授業内容、評価方法について確認します。
	1 現代の政治 (1) 民主政治の基本原則と 日本国憲法		(1)では、日本国憲法の基本的性格や日本の政治機構について理解を深め、望ましい政治の在り方と国民の政治参加の意義について考察します。
	政治と法の機能	4	政治とは何か、国家の役割は何か、民主政治とは何かについて学び、国家の法が何のためにあるかを考察します。
	人権保障と法の支配		人権保障の歴史や広がり、法の支配と法治主義について学び、権利と義務・責任の関係を考察します。
	議会制民主主義と 政治の特質		議院内閣制と大統領制の違い、社会主義国の政治体制について学び、首相公選制を考察します。
	日本国憲法の基本原則	5	明治憲法の特色、日本国憲法の三大基本原則、憲法の最高法規性について学び、改憲論議を考察します。
	基本的人権の保障と 新しい人権		日本国憲法に規定する基本的人権、新しい人権、国民の三大義務について学び、公共の福祉を考察します。
	国会の組織と機能		国会の組織や役割、法律の成立過程、衆議院の優越について学び、二院制の問題点を考察します。
	内閣の機構と機能	6	国会と内閣の関係、内閣総理大臣と内閣の権限について学び、行政改革の状況を考察します。
	裁判所の機能と人権保障		司法権の独立、裁判制度、違憲法令審査権について学び、司法改革の問題を考察します。
地方自治制度と住民の権利		地方自治の本旨、地方公共団体の行政機構と権限、住民の権利について学び、市町村合併問題を考察します。	
政党政治と選挙	7	政党の役割、日本の選挙制度とその問題点について学び、18歳投票制を考察します。	
世論と現代政治の課題		世論と政治、マスメディアの役割と課題、国民の政治参加の意義について学び、棄権の是非を考察します。	
学 期	(2)現代の国際政治と日本		(2)では、国際政治に関わる基本的な概念や理論、現代の国際政治の特質や国際紛争の諸要因について理解を深め、国際社会における日本の役割について考察します。
	国際政治の動向		冷戦下の国際政治、冷戦の終結、冷戦後の国際政治の動向について学び、国際社会における相互依存関係を考察します。
	国際社会と国際法	9	国内法と国際法、国境紛争と国際裁判について学び、日本及び世界各地の領土問題を考察します。
	国際連合の役割と国際協力		勢力均衡と集団安全保障、国連の組織・機能について学び、国連の役割と課題を考察します。
	安全保障と日本の防衛		日本の安全保障政策、防衛の基本方針について学び、日本の平和と安全をどのように確保すべきかを考察します。
	国際政治の特質と 国際紛争の諸要因 国際平和と日本の役割		国内政治と国際政治、世界各地の国際紛争の諸要因について学び、難民問題を考察します。 国際紛争や戦争を防ぐために必要なこと、これからの国際社会における日本の果たすべき役割について考察します。
学 期	2 現代の経済 (1)経済社会の変容と 経済のしくみ		(1)では、経済に関する基本的な概念や理論、現代の日本経済の特徴について学び、これからの日本経済の在り方を考察します。



2 学 期	資本主義経済の発展と 社会主義経済の変容 経済主体と経済活動	10	資本主義経済と社会主義経済の特質について学び、それぞれの課題を考察します。 家計・企業・政府という三つの経済主体の役割、株式会社のしくみについて学び、企業倫理の在り方を考察します。 価格の種類、市場機構、市場の失敗、独占の形態、独占禁止法について学び、外部不経済について考察します。 国富と国民所得、景気変動の要因と四つの局面について学び、生活の豊かさとは何かを考察します。
	市場経済の機能と限界 経済成長と景気変動 財政のしくみとはたらき	11	財政のしくみと役割、租税の種類としくみについて学び、国債残高問題と税制上の課題を考察します。 金融市場のしくみ、銀行の役割、日本銀行の金融政策について学び、日本版ビッグバンについて考察します。 インフレの要因と種類、物価安定のための施策について学び、デフレのしくみを考察します。 戦後の日本経済の歩み、日本経済の国際化と規制緩和について学び、これからの日本経済の在り方を考察します。
3 学 期	(2)国民経済と国際経済		(2)では、国際経済に関する基本的な概念や理論、近年の国際経済の特質について理解を深め、国際経済の発展に果たすべき日本の役割について考察します。
	国際経済のしくみと現状 為替相場のしくみ 国際協調と 国際経済機関の役割 国際経済の諸問題と 日本の役割	12 1	国際分業、貿易の意義と役割、国際資本移動について学び、自由貿易論と保護貿易論の考え方を比較し考察します。 外国為替市場のしくみ、為替相場の変動の要因について学び、円高と円安の影響を考察します。 ブレトンウッズ体制、国際通貨制度の変遷、WTOの役割について学び、国際経済機関の果たす役割を考察します。 地域的経済統合の動き、南北問題、南南問題について学び、国際経済の発展に果たすべき日本の役割について考察します。
3 学 期	3 現代社会の諸課題 (1)現代日本の政治や 経済の諸課題 大きな政府と小さな政府 少子高齢社会と社会保障 住民生活と地方自治 情報化の進展と市民生活 労使関係と労働市場 産業構造の変化と中小企業 消費者問題と消費者保護 公害防止と環境保全 農業と食料問題 (2)国際社会の政治や経済の 諸課題 地球環境問題 核兵器と軍縮 国際経済格差の是正と 国際協力 経済摩擦と外交 人種・民族問題 国際社会における 日本の立場と役割	2 3	これまでの政治や経済に関する学習の成果を生かし、現代の政治や経済の諸課題の中から選択して追究する学習を行い、望ましい解決の在り方について考察します。 【課題追究学習の進め方】 〔課題の設定〕 「1 現代の政治」「2 現代の経済」の学習をもとに、自分の興味・関心に応じて ~ の中から一つ、 ~ の中から一つのテーマを設定し、課題追究の内容や方法などの事項を所定の用紙に記入し、1月末までに提出します。 〔課題追究〕 同じテーマごとに班を編成し、課題追究の内容や方法、まとめ方等について事前計画を立て、課題追究学習を行います。 〔まとめ〕 望ましい解決の在り方について、論拠を明確にして各自の意見や考えをレポートにまとめます。 〔発表〕 テーマごとに、考察した過程や結果を発表します。発表終了後、自己評価と相互評価を行います。

## 数学科「数学 + A」シラバス

学 年	第 1 学 年	単 位 数	5 ( 3 + 2 ) 単位
<p>中学校で学んだ、方程式、2乗に比例する関数、図形を発展させた内容です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高等学校の数学の基礎となる科目で、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、それらを的確に活用する能力を身につけます。</li> <li>・大学入試センター試験の選択科目となっています。</li> </ul>			

## 1 履修するに当たって

使用教材	教科書	数学 出版	数学 A 出版
	副教材	数学 出版	数学 A 出版
参考書等	数学 (参考書) 数学 (読み物)		
授業の進め方	<p>数学の見方や考え方を身につけるために次のような数学的活動を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な事象を取り上げそれを数学化し、数学的な課題を設定する活動。</li> <li>・様々な課題を数学的に考察・処理し、問題解決の方法を身につける活動。</li> <li>・問題解決の思考過程を振り返ったり、意味を考えたり、より発展的に考えたりして問題の本質を探る活動。</li> </ul> <p>授業で取り扱った考え方や知識等を定着させるために、関連する内容を家庭学習用の課題として扱います。授業と家庭学習用の課題がお互いに補完するように授業を進めます。</p>		
評価について	【評価の基本方針】 知識や技能の定着度のみではなく、学習過程における問題に対する取り組み状況や数学的な見方や考え方等を総合的に判断して学力を評価します。		
	小テスト	内容のまとめりごとに、基礎的、基本的事項について出題します。	
	課題ノート	授業で扱った問題の類題2～3題を毎回課題として出題します。専用のノートを作成して提出します。	
	授業ノート	小テストの実施にあわせて授業ノートを提出します。重要ポイントや不理解箇所を記入し復習時の参考にしましょう。	
	ワークシート	授業で数学的活動を行うときに使用します。授業が振り返れるよう年間を通して綴じて使用します。	
	定期試験	教科書や問題集など授業で扱った内容を中心に評価します。	
家庭学習など自主的な学びのすすめ	<p>次のようなことに注意して学習に取り組もう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学んだ内容は、日常生活とどのようにかわるのか考えてみよう。</li> <li>・学んだ内容にはどのような歴史的背景があるのか調べてみよう</li> <li>・学んだ内容に含まれる数学的な見方や考え方は何かを考えてみよう。</li> <li>・学んだ数学的な見方や考え方は他のどんな場面で使えるか考えてみよう。</li> <li>・問題を解くことができたなら、他の考え方や解法がないか考えてみよう。</li> <li>・[わかること]と[わからないこと]をはっきりさせよう。</li> </ul> <p>毎日の学習では・・・</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・予習、授業、復習のサイクルを確立しよう。</li> <li>・「教科書は最良の参考書である」ことを忘れずに！</li> <li>・問題集の問題は、卒業までに最低10回は解いてみよう！</li> </ul>		

## 2 主な学習内容と学習のねらい

学習内容	学習のねらい
方程式と不等式	数を実数まで拡張することの意義を理解し、式の見方を豊にするとともに、1次不等式及び2次方程式についての理解を深め、それらを活用できるようにします。
2次関数	2次関数について理解し、関数を用いて数量の変化を表現することの有用性を認識するとともに、それを具体的な事象の考察や2次不等式を解くなどに活用できるようにします。
図形と計量	直角三角形における三角比の意味、それを鈍角まで拡張する意義及び図形の計量の基本的な性質について理解し、角の大きさなどを用いた計量の考えの有用性を認識するとともに、それらを具体的な事象の考察に活用できるようにします。
平面図形	三角形や円などの基本的な図形の性質についての理解を深め、図形の見方を豊かにするとともに、図形の性質を論理的に考察し処理できるようにします。
集合と論理	図表示などを用いて集合についての基本的な事項を理解し、統合的に見ることの有用性を認識し、論理的な思考力を伸ばすとともに、それらを命題などの考察に生かすことができるようにします。
場合の数と確率	具体的な事象の考察などを通して、順列・組合せや確率について理解し、不確定な事象を数量的にとらえることの有用性を認識するとともに、事象を数学的に考察し処理できるようにします。

## 3 学習計画

各期ごとに、下表の学習のアドバイスなどを参考に、学習内容を確認しながら、授業の理解や自分の取り組みに対する振り返りを行って学習を進めましょう。

学期	月	学習内容	小テスト	学習のアドバイス	
第1学期	4	<b>方程式と不等式(数学)</b> <b>ア 数と式</b> <b>(ア)実数</b> 有理数、無理数 循環小数 実数と四則演算 絶対値 平方根と分母の有理化	小テスト1	単に数の名前を覚えたり計算ができるようになるだけでなく、その性質や数を拡張してきた考え方を理解しましょう。 特に絶対値の考え方は大切なのでよく理解しておきましょう。	
		<b>(イ)式の展開と因数分解</b> 指数法則 乗法公式(3乗) 整式の展開(置き換え、組み合わせ) 因数分解の公式(3乗) 複雑な式の因数分解			
		5	<b>イ 1次不等式</b> 不等式の性質 1次不等式 連立不等式 絶対値のついた不等式	小テスト3 小テスト4	単に解を求められるようになるだけでなく、不等式が表している条件の意味を考えてみましょう。 場合分けの考え方を理解し、絶対値の処理がきちんとできるようにしましょう。  解の公式は有効な場面を考えながら使いましょう。 判別式の考え方は2次関数のところでも大切になるのでよく理解しておきましょう。
			<b>ウ 2次方程式</b> 解の公式 判別式と解の個数 2次方程式の応用	小テスト5 小テスト6	
第 1 学 期 中 間 試 験					

6	2次関数(数学)		
	ア 2次関数とそのグラフ		
	平行移動	小テスト7	標準形や一般形で表された2次関数の特徴を、平行移動や係数の変化による関数の変化などを考えながら理解しましょう。 平方完成はまず基本的な変形の手順を覚えましょう。
	平方完成		
	対称移動		
	2次関数の決定		
	連立3元1次方程式	小テスト8	
	イ 2次関数の値の変化		
	(ア) 2次関数の最大・最小		2次関数の最大値や最小値が係数の変化や定義域によってどのように変わるかイメージでとらえられるようにしましょう。 適切に場合分けができるように場合分けの考え方も習熟しましょう。
	最大・最小	小テスト9	
最大・最小(文字係数)			
最大・最小(不定範囲)	小テスト10		
2次関数とx軸との共有点の個数	小テスト11		
2次関数と2次方程式	小テスト12		
2次方程式と解の条件			
(イ) 2次不等式		2次不等式を2次関数のグラフのイメージでとらえられるようにしましょう。	
2次関数と2次不等式	小テスト13		
2次不等式と解の条件	小テスト14		
第 1 学 期 期 末 試 験			
【提出物】			
1 数学的活動で使用したワークシート(10枚程度)			
2 授業ノート(小テスト実施日)			
3 課題ノート(毎週月曜日)			
【第1学期の評価方法】			
中間試験と期末試験の成績をメインに小テスト(14回)、ワークシート、授業ノート、課題ノートなどの提出物の内容、および学習活動への参加の仕方や態度などを参考に評価します。			

学 期	月	学 習 内 容	小テスト	学 習 の ア ド バ イ ス
第 2 学 期	8	平面図形(数学A)		単に重心や外心などの性質や求め方を覚えるだけでなく、図形をいろいろな視点からとらえて図形の美しい性質を追求してみましょう。
		ア 三角形の性質		
		角の2等分線と辺の比		
		三角形の辺と角の大小関係		
		三角形の重心		
	三角形の外心	小テスト15		
	三角形の内心			
	9	イ 円の性質		円の性質はこの後も図形問題では大切になります。特に四角形との性質はよく理解しておきましょう。
		2円の位置関係		
		共通接線		
円周角の定理の逆(間接証明)				
円に内接する四角形				
円に外接する四角形	小テスト16			
接線と弦のなす角の性質				
方べきの定理				
10	図形と計量(数学)		直角三角形で三角比を定義した後、鈍角に拡張するとき定義が変わります。混乱しないできちんと理解しましょう。	
	ア 三角比			
	(ア) 正弦、余弦、正接			
	直角三角形の辺と角の関係			
	鋭角の三角比	小テスト17		
座標平面と三角比				
鈍角の三角比	小テスト18			
第 2 学 期 中 間 試 験				

## 理科「理科総合 B」シラバス

約46億年の時間がつくりあげた地球上の生物と自然環境のかかりについて総合的に学ぶ科目です。人類の共通の課題である地球環境問題についても科学的に探究していきます。中学校理科の第二分野の内容と関連が深く、さらに生物 や地学 などを学んでいくための基礎となる科目です。平成18年からの大学入試センター試験において、理科の選択科目の一つとなっています。

単 位	2	履修学年	2	履修区分	教養コースのみ必修
学 習 の ね ら い	生物とそれを取り巻く地球環境を科学的に調べる方法を身につけます。 生物とそれを取り巻く地球環境を中心とした自然の事象について理解を深めます。 自然の事象やそのしくみについて、根拠をもって説明する力を高めます。				
主 な 教 材	教科書	理科総合 B / 社	副教材	理科総合 B 演習 / 社	
授 業 に つ い て	ふだんの授業はワークシートを中心に進めます。 観察、実験を通して、科学的に探究するための技能を身に付たり、表現力を高めます。 (例) 仮説の設定の仕方、観察・実験の計画、結果のまとめ方や解釈の仕方、 グラフや図のかき方と読み取り方、考察の仕方 身近な環境や地球環境をテーマにした課題研究に取り組みます。 (例) 「宇都宮市内を流れる田川の水質を指標生物を用いて調べよう。」 「インターネットを利用して本県の大気汚染の状況を調べよう。」				
評 価	評価の基本方針 学習の過程における取組状況、内容のまとめりごとに、次の四つの観点から評価します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然や科学に対する「関心・意欲・態度」</li> <li>・科学的な「思考・判断」</li> <li>・自然の事物・現象についての「知識・理解」</li> <li>・観察や実験に関する「技能・表現」</li> </ul> テストや提出物だけでなく、学習への取組状況なども総合的に評価します。				
	確認テスト (年間 10 回)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次ページ以降の学習計画に示す内容のまとめりごとに実施します。</li> <li>・教科書の記述などの基礎的内容を理解しているかどうかを確認するためのテストです。</li> <li>・問題集の基礎レベルの難易度を参考に出题します。</li> </ul>			
	定期テスト (年間 5 回)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートなどにまとめた授業の内容を理解しているかどうかを確認する問題を、配点の70%程度出题します。これらの問題の難易度は、問題集の標準レベル程度とします。</li> <li>・学んだことを発展させる力をみるための応用的な問題を、配点の30%程度出题します。これらの問題の難易度は、問題集の発展レベル程度とします。</li> </ul>			
	提出物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提出されたワークシート、課題研究の計画書・報告書などは、そのつど取り組み状況や成果を評価し返却します。</li> </ul>			

家庭学習  
など自主  
的な学  
びの  
すすめ

問題集の取り組み方など具体的なアドバイスは、ワークシートに示します。  
 確認テスト前の学習のポイント  
 教科書の重要事項や問題集の基礎レベル問題を確認してください。  
 定期テスト前の学習のポイント  
 ワークシートにまとめた考察の内容や問題集の標準レベル問題を確認してください。  
 問題集の発展レベルの問題は、各自の学習の進度に合わせて取り組んでください。  
 課題研究は夏期休業中に取り組み、課題研究の手引きにしたがってまとめてください。  
 課題研究の計画書の提出時期は7月初旬です。教科担任の中間指導を受けてから提出してください。  
 課題研究の報告書の提出時期は9月の第1週です。

## 学習計画

学習の到達目標の各項目がチェックできるように示してあります( )。テストの前に自分の学習の取り組みを振り返るために活用してください。

定期テストの期日が発表されたら、シラバスに記入してください。

学習の成果が思わしくない場合だけでなく、家庭学習がうまく進められない人、さらに学習を発展させたい人も積極的に学習相談を受けてください。

## 第 1 学期

期	主な学習内容・テーマ	到達目標	提出物/テスト範囲
1 学 期 前 期	学習のガイダンス 課題研究のガイダンス	授業の進め方、テストの出題方針を確認する。 課題研究の進め方や報告書の作成の仕方を確認する。	課題研究 計画書
	(1) 自然の特徴とその見方 宇宙の中の地球、 太陽エネルギーと地球 生物に見られる共通性 生態系とエネルギー 安定した自然のしくみ	根拠を示しながら、自分の考えをワークシートに記入できる。 生物や地球環境のもつ多様性と共通性に着目し、その特徴を指摘できる。 生物や地球環境のもつ変化とバランスに着目し、その特徴を指摘できる。	ワークシート 、 、 、
	確認テスト(1)	教科書の重要事項が理解できる。	
	(2) 探究の過程とその報告 太陽放射と水の温度上昇 顕微鏡による生物の観察 「小さな生物、細胞」 野外観察(地層・岩石) 「地層中の礫と河原の礫」	観察、実験の目的や方法を説明できる。 観察、実験の結果を図・表にまとめられる。 観察、実験の結果を説明できる。 実験結果や根拠を示しながら、「仮説の設定」、「考察」ができる。	ワークシート 、 、
	確認テスト(2)	教科書の重要事項が理解できる。	
	定期テスト 月 日( )	ワークシートや問題集を見直すことができる。	学習相談カード (該当者・希望者)
1 学 期 後 期	(3) 地球 地球はどのような特徴をもった惑星か。 地球の表面にはどのような変動が見られるか。 地球上での生命の誕生と生物の移り変わりのようすはどのようなものか。 地球の変動をグラフやモデルで理解しよう。	地球と太陽系の他の惑星を比較し、その特徴を説明できる。 プレートの動きと地殻変動などの関係をモデルを使って説明できる。 太古から現在まで、生物は地球環境の変化とどのようにかわりながら変化してきたか説明できる。 自分なりに工夫を加え、グラフやモデルを扱うことができる。	ワークシート 、 、 、
	確認テスト(3)	教科書の重要事項が理解できる。	
	(4) 遺 伝 遺伝の規則性はどのようなものか。 植物の花のつくりと生殖のしくみを調べよう。 モデルを使って交配実験を説明しよう。	特定の遺伝形質に着目し、親子の間での形質の伝わり方を説明できる。 花の観察結果をもとに、生殖のしくみを模式図に表し、説明できる。 遺伝子や染色体のモデルで、親子の間の遺伝子の伝わり方を説明できる。	ワークシート 、 、
	確認テスト(4)	教科書の重要事項が理解できる。	
	定期テスト 月 日( )	ワークシートや問題集を見直すことができる。	学習相談カード (該当者・希望者)
	課題研究計画書完成	課題研究計画書を完成させ、研究の進め方を確認する。	課題研究計画書

## 外国語科「英語」シラバス

普通科 1 学年	単位数 3	履修区分 必修	履修形態 HR
----------	-------	---------	---------

### 1 担当者からのメッセージ

高校での英語学習では、毎日必ず学習することが大切です。この学習計画を参考にして、「自ら進んで学習する」習慣を身につけましょう。学習のねらい(活動)欄の“ ”は、学習を振り返るときに利用しましょう。

### 2 学習の目標

「日常的な話題について、聞いたことや読んだことを理解し、情報や考えなどを英語で話したり書いたりして伝える基礎的な能力を養うとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。」

### 3 評価の観点

- 【関心・意欲・態度】コミュニケーションに関心をもち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。
- 【表現の能力】日常的な話題について、情報や考えなど伝えたいことを英語で話したり、書いたりして表現する。
- 【理解の能力】日常的な話題について、英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなど相手が伝えようとすることを理解する。
- 【知識・理解】日常的な話題についての英語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身につけるとともに、その背景にある文化などを理解している。

### 3 主な教材の紹介

教科書： course ( 出版 )  
 補助教材：教科書準拠ワークブック( 書店 )... 家庭学習において復習として利用しましょう。

### 4 学び方についてのアドバイス

授業の前に教科書、ノート、英和辞典を用意しましょう。予習 授業 復習の学習サイクルの早期確立に向け努力しましょう。予習でわからない点を明らかにして、授業に臨みましょう。

### 5 評価や成績についての確認事項

- ・定期考査(中間・期末) 提出物、授業中の発表・態度、出席状況、小テストを評価の対象とします。
- ・定期考査の概要については、学習計画に示します。

定期考査以外の評価方法について

〔発表(ペアワーク、個人の意見、手順の説明)の評価のポイント〕

keep eye contact 声の大きさ 正しい発音と抑揚 モデル文を変えて自分の語彙を使う

〔音読テープの評価のポイント〕

発音 イントネーション リズム 文の切れ目

〔EXPRESS YOURSELFの評価のポイント〕

文量 筋道がはっきりしていて具体的でわかりやすい 文法・語法・綴りが正確

〔単元最後の確認小テスト〕

補充学習について

- ・定期考査および単元最後の文法テストの結果から、理解が不十分と判断された生徒に対して補充指導を行います。
- ・該当者はテスト返却後、個別に連絡します。

## 6 学習計画

## 1 学期前期

月	時数	学習内容・事項	学習のねらい(活動)	小テスト・提出物・課題
4	10	Lesson 1 Time for a New Dream 『20世紀は科学技術で多数の夢を達成したが、反面、環境問題等が生じている。21世紀に生きるあなたの夢について考える。』  ・音読(全体) ・辞書の引き方 ・ノートの取り方 ・予習復習の仕方 ・ペアワークの仕方 ・意見発表の仕方  【5文型/現在進行形】 ワークシートでの練習	本文を大きな声で元気よく音読できる。 (全体練習) 本文の単語を正確に発音し綴るのに慣れる。  予習・復習の仕方について学び、家庭で実践する。 辞書の引き方に慣れる。(随時練習) 熟語を理解し、辞書で調べ例文を抜き出すことができる。 ノートの整理ができる。 ペアワークの目的を理解し楽しくできる。 (旅行者と旅行代理店に分かれ会話練習をする。) 自分の意見をまとめて相手に伝えることに慣れる。 (「自分の夢」という題で70語の英文を作る。)	・単語 quiz、 dictation quiz を適宜実施する。 (問題は5問)  ・「自分の夢」という題で級友の前で自己紹介を兼ねて発表する。  ・単元の最後に5文型と進行形の確認小テストを実施する。 (教科書、ワークシートの例文から出題)  ・単元の最後にノートを提出する。
5				
6	8	Lesson 2 Children: Mirror of the World 『子供の社会に対する役割と教育の重要性について考える』  ・音読(全体、個人) ・辞書の意欲的な活用 ・心配を伝える表現 ・Listening Comprehension  【受動態/現在完了】 ワークシートでの練習	本文を大きな声で音読できる。 (全体・個人練習) 意味のまとまりを捉えることに慣れる。 発音記号を意識し新出単語を発音するのに慣れる。 疑問点を辞書で調べ、積極的な学習ができる。 友人同士、英語でやりとりすることに慣れる。 (本文の内容についてQ&A方式で練習する) 心配事を相談する会話を作ることができる。 (心配事を相談する会話をペアワークで練習する。) テープを聴いてハナコの旅行体験の概略がわかる。	・各自、教科書本文の1部分を音読したテープを提出する。  ・教科書 p24 の EXPRESS YOURSELF をノートに書いて提出する。  ・単元の最後に受動態、現在完了(ワークシートの例文から)の確認小テストを実施する。
<p>1 学期中間考査 [ 5 / ( ) ] 50分 100点          [ 出題範囲 ]          教科書 Lesson 1 ~ 2、教科書準拠ワークブック Lesson 1 ~ 2          [ 主な出題内容 ]          本文の内容理解 単語(発音アクセント、綴り)          熟語 文法事項(5文型、進行形、受動態、現在完了)          心配を伝える表現 教科書準拠ワークブックの該当部分          [ 出題形式と配点 ]          ・総合問題(各 lesson から Q &amp; A 形式、文整序、空所適語選択で出題)(配点 40)          ・dictation テスト(本文から)(配点 10)          ・語彙問題(教科書の例文から)(配点 10)          ・文法問題(教科書の練習問題とワークシートから出題)(配点 25)          ・リスニング問題(悩みの相談から)(配点 10)          ・「私の夢」という題で70語程度で書く(配点 5)</p>				



1 学期 後期

月	時数	学習内容・事項	学習のねらい(活動)	小テスト・提出物・課題
6	7	Lesson 3 Alex The Parrot 『オウム <span>の</span> 知性 <span>に</span> かんする調査 <span>を</span> 述べた文 <span>を</span> 読み、知性 <span>とは</span> 何か <span>に</span> ついて考える。』  ・音読(全体、個人) ・辞書の活用 ・手順を説明する表現  【不定詞/動名詞/分詞】 ワークシートでの練習	意味のまとまりを考えながら、本文を音読することができる。(全体・個人練習) 新出単語の発音記号に慣れる。 積極的に辞書を使って調べる。(随時) 段落毎に要旨をまとめることができる。 (簡単な表題を、自分なりにつける練習をする。) 得意料理の作り方の手順を、相手に分かり易く説明できる。 (各自が料理の作り方を絵などを用いて、グループ内で発表する。)	・各自、教科書本文の1パートを音読したテープを提出する。  ・単元の最後に準動詞(ワークシートの例文から)の確認小テストを実施する。
	12	Lesson 4 To the Land of Peter Rabbit 『旅行先 <span>の</span> イギリス湖水地方 <span>から</span> の手紙 <span>を</span> 読み、イギリス <span>の</span> 自然や文化 <span>に</span> ついて理解 <span>を</span> 深める。』  ・音読(ペアワーク) ・辞書の活用 ・勧誘の表現 ・電話によるホテルの予約 ・天気予報を聞き取る ・切符を買うときの表現 ・レストランでの注文の仕方  【関係代名詞/第5文型(S+V+O+to do)】 ワークシートでの練習	意味のまとまりを理解し、本文を正しく音読できる。(友人同士で相互評価する) 辞書を使って予習ができる。 本文の単語を正しく発音し綴ることができる。 必要な情報を入手したり、相手に情報を伝えることに積極的に参加できる。 (次のタスクを使ってペアワークで練習する) ・電話でホテルの予約が取れる。 ・駅で切符が買える。 ・フロントで目的地への行き方を尋ねることができる。また、逆に簡潔に教えることができる。 ・レストランでメニューを見て注文できる。  ラジオの天気予報から要点を聞き取ることができる。 イギリスの自然・文化を積極的に調べられる。 (グループ毎に図書館や、インターネットを利用してイギリスの観光名所を調べる。)	・単語 quiz、dictation quiz を適宜実施し、生徒同士で採点し添削する。 (問題は5問)  ・イギリスの観光地をグループ毎に調べ名所や物産品を級友に紹介・発表する。  ・単元の最後に関係代名詞と第5文型(補語に不定詞)の確認小テストを実施する。
7				

1 学期期末考査 [ 7 / ( ) ] 50分 100点

〔出題範囲〕  
教科書 Lesson 3 ~ 4、教科書準拠ワークブック Lesson 3 ~ 4

〔主な出題内容〕

本文の内容理解	単語(綴り)
熟語	文法事項(準動詞、関係代名詞、S+V+O+to do)
勧誘の表現	イングランドの天気予報
電話でのホテルの予約	自由英作文

〔出題形式と配点〕

- ・空所補充問題。よく本文を読んでくること。(配点 30)
- ・dictation テスト(教科書の本文から)。(配点 10)
- ・文法問題(教科書の練習問題とワークシートから)。(配点 30)
- ・リスニング問題(天気予報、電話によるホテルの予約から)。(配点 20)
- ・自由英作文(得意料理のレシピから)。(配点 10)

## 保健体育科「体育」シラバス

**教科担当者からのメッセージ**

運動をすると、さわやかな気分になったり心地よさを味わったりすることができます。また、体力の向上にもつながります。

現代社会で健康を保持増進していくには、運動は必要不可欠です。日常生活の中に運動を取り入れたり、生涯にわたって運動に親しむことができるように、運動の仕方を身に付けながら運動のもつ楽しさを感じられるような授業を行います。

積極的に楽しく運動しましょう。

第1学年	3単位	必修	教科書等：高校保健体育（ 出版）保健体育資料（ 出版）
------	-----	----	-----------------------------

**授業を通して目指すこと**

- ・運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう自ら進んで運動し、公正、協力、責任などの態度を身に付けるとともに、健康・安全に留意して運動できること。
- ・自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、活動の仕方を考え、工夫できること。
- ・必要な運動の技能を高めたり、体力を高めるための運動の合理的な行い方を身に付けること。
- ・生活における運動の意義や必要性及び運動の特性と合理的な行い方を理解し、知識を身に付けること。

**授業の進め方や学び方についてのアドバイス**

教科内の科目の系統や関連

- ・体育は3年間を通じて学びます。また、保健との関連も重要です。別に配られる保健体育科指導計画をみて、3年間の見通しを持ってください。
- ・各種目ごとにその都度、授業計画について説明します。

学習への心構え

- ・競技種目を行うことや勝敗を競うことだけが運動ではありません。運動に対し苦手意識をもっていたり運動は嫌いと思っている人も、新たな気持ちで授業に臨んでください。
- ・与えられた運動をただ行うだけでなく、自分や仲間の課題がどこにあるのか、課題の解決のためには何をどのようにすればよいのかなど、積極的に課題の発見や解決に取り組んでください。
- ・体育にとっての「学力」とは、基礎的な知識・技能のもとに意欲をもって「運動を実践する力」です。ふだんの生活の中でも運動の実践に心がけてください。

授業を受けるにあたって守ってほしい事

- ・学校指定の体操服を着用すること。また、こまめに洗濯し衛生面に気を付けること。
- ・授業はチャイムと同時に始めます。休み時間のうちに活動場所へ移動すること。
- ・見学者は授業前に申し出て指示を受けること。
- ・貴重品の管理をしっかりと行うこと。

**評価について**

体育の評価は、運動ができるかどうかだけではありません。下の内容を総合的に判断し評価します。

評価の観点および内容		評価の材料
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に運動しているか。</li> <li>・協力して運動しているか。</li> <li>・健康や安全に注意しているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業態度の観察</li> <li>・学習カード</li> <li>・スキルテスト</li> <li>・記録会や試合の結果の分析</li> </ul> <p style="text-align: right;">など</p>
思考・判断	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題を見つけ出しているか。</li> <li>・課題の解決を目指して、運動の仕方を工夫しているか。</li> </ul>	
運動の技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技能を高めているか。</li> <li>・体力を高めているか。</li> </ul>	
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動の合理的な行い方を身に付けているか。</li> <li>・運動の仕方や体力の高め方を理解しているか。</li> <li>・種目の特性、ルールや審判法を理解しているか。</li> </ul>	

### 学習計画

- ・学習のねらいと主な学習内容を示しました。また、保健や学校行事等との関連も示しました。
- ・別に配付される保健体育科指導計画や、種目ごとの授業計画の説明を参考にしてください。

## 第 1 学期

月	主な学習項目	学習のねらいと主な活動内容		
4	「体育」学習について	「体育」学習の意義や内容、評価の方法を理解します。		
	集団行動 体づくり運動 体育理論	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動を適切に行うための、集団行動の意義や行い方を理解します。</li> <li>・手軽な運動や律動的な運動などを行い、体ほぐしの運動のねらいや行い方を理解します。</li> </ul> <p style="text-align: right;">「保健」の(精神の健康)と関連</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種の体力を高める運動も行い、体力の向上を図ります。</li> <li>・運動に関連する体力や健康に関連する体力など、体力の幅広い捉え方を学びます。</li> <li>・ふだんの生活の中で計画的に運動を実践していく考え方や方法を身に付けます。</li> </ul> <p style="text-align: right;">「保健」の(運動と健康)と関連</p>		
5	武道・ダンスの選択	6月上旬に新体力テストを行います。今の自分の体力の理解に役立ててください。		
		<p>2、3年次に継続して発展的に行われる授業の導入的内容です。</p> <p style="text-align: center;">武道・ダンスの選択は、男女を問いません</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>《武道選択者》</p> <p>我が国固有の文化としての伝統的な行動の仕方や礼儀作法を尊重しながら学習します。</p> <p>1年次は、基本的技能の確実な習得を目指します。</p> <p style="text-align: center;">武道は、柔道と剣道から選択します</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>柔道</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本動作</li> <li>投げ技の基本動作</li> <li>固め技の基本動作</li> <li>受け身</li> <li>対人的技能</li> <li>投げ技</li> <li>固め技</li> </ul> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>剣道</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本動作</li> <li>構えと体さばき</li> <li>打突の仕方と受け方</li> <li>対人的技能</li> <li>しかけ技</li> </ul> </td> </tr> </table> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>《ダンス選択者》</p> <p>1年次は、伝承された踊りを身に付けてみんなで一緒に踊る「フォークダンス」を行います。</p> <p>日本の民謡や外国のフォークダンスの文化的背景や動きの特徴を理解し、みんなで楽しく踊って交流できるようにします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の民謡</li> <li>・外国のフォークダンス</li> </ul> </td> </tr> </table>	<p>《武道選択者》</p> <p>我が国固有の文化としての伝統的な行動の仕方や礼儀作法を尊重しながら学習します。</p> <p>1年次は、基本的技能の確実な習得を目指します。</p> <p style="text-align: center;">武道は、柔道と剣道から選択します</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>柔道</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本動作</li> <li>投げ技の基本動作</li> <li>固め技の基本動作</li> <li>受け身</li> <li>対人的技能</li> <li>投げ技</li> <li>固め技</li> </ul> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>剣道</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本動作</li> <li>構えと体さばき</li> <li>打突の仕方と受け方</li> <li>対人的技能</li> <li>しかけ技</li> </ul> </td> </tr> </table>	<p>柔道</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本動作</li> <li>投げ技の基本動作</li> <li>固め技の基本動作</li> <li>受け身</li> <li>対人的技能</li> <li>投げ技</li> <li>固め技</li> </ul>
<p>《武道選択者》</p> <p>我が国固有の文化としての伝統的な行動の仕方や礼儀作法を尊重しながら学習します。</p> <p>1年次は、基本的技能の確実な習得を目指します。</p> <p style="text-align: center;">武道は、柔道と剣道から選択します</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>柔道</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本動作</li> <li>投げ技の基本動作</li> <li>固め技の基本動作</li> <li>受け身</li> <li>対人的技能</li> <li>投げ技</li> <li>固め技</li> </ul> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>剣道</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本動作</li> <li>構えと体さばき</li> <li>打突の仕方と受け方</li> <li>対人的技能</li> <li>しかけ技</li> </ul> </td> </tr> </table>	<p>柔道</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本動作</li> <li>投げ技の基本動作</li> <li>固め技の基本動作</li> <li>受け身</li> <li>対人的技能</li> <li>投げ技</li> <li>固め技</li> </ul>	<p>剣道</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本動作</li> <li>構えと体さばき</li> <li>打突の仕方と受け方</li> <li>対人的技能</li> <li>しかけ技</li> </ul>	<p>《ダンス選択者》</p> <p>1年次は、伝承された踊りを身に付けてみんなで一緒に踊る「フォークダンス」を行います。</p> <p>日本の民謡や外国のフォークダンスの文化的背景や動きの特徴を理解し、みんなで楽しく踊って交流できるようにします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の民謡</li> <li>・外国のフォークダンス</li> </ul>	
<p>柔道</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本動作</li> <li>投げ技の基本動作</li> <li>固め技の基本動作</li> <li>受け身</li> <li>対人的技能</li> <li>投げ技</li> <li>固め技</li> </ul>	<p>剣道</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本動作</li> <li>構えと体さばき</li> <li>打突の仕方と受け方</li> <li>対人的技能</li> <li>しかけ技</li> </ul>			
6	水泳	<p>1学期は、各種泳法やスタートの技能の練習を中心に、2学期は、各自の体力や目標に応じ、速く泳いだり、長く泳いだりすることを目指すコースを選択しての学習を中心に、各種泳法の技能を高め記録向上の喜びや競泳の楽しさを味わいます。また、水中環境の特徴を利用し、体力を高めたり、体の調子を整える運動も行います。</p> <p>事故防止の心得や救助法についても学習します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・泳法</li> <li>クロール、平泳ぎ、背泳ぎ など</li> </ul> <p style="text-align: right;">終業式前日に、校内水泳大会があります</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・応急手当</li> <li>心肺蘇生法(実習)</li> </ul> <p style="text-align: right;">「保健」の(応急手当)と関連</p>		
		7		
<p><b>【課題や提出物】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各授業ごとに、個人やグループの学習カードに必要事項を記入して提出します。</li> <li>・各種目とも、学習の始めや終わりに、スキルテストを実施します。</li> </ul>				
<p><b>【第1学期の評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体づくり運動 40%、武道・ダンス 60%の割合で評価します。水泳は2学期の評価に加えます。</li> <li>・体づくり運動では、自分の体力の現状の理解、体力を高める意義の理解及びその実践について、武道では、伝統文化への理解や行動の仕方の理解及び技能の習得、ダンスでは、リズムに乗って体を動かすことやフォークダンスの技能の習得などを中心に、「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能」「知識・理解」の観点から総合的に評価します。</li> </ul>				

3年間、各学期の最初の授業で学習計画表を配付します。ファイルに追加してください。

## 保健体育科「保健」シラバス

### 教科担当者からのメッセージ

よりよく生活していくためには「健康」であることがとても大切です。「損なって、初めて気づく、ありがたさ」というのが健康です。毎日の生活の中で意識的に健康の保持増進を図っていくことが大切です。

保健の授業では、健康に対する基本的な考え方や知識をもとに、実生活の中で課題を解決したり、健康的な生活を実践したりできるようにすることを目指します。自分や家族、友達など身近な人々の生活と結びつけながら、学習を進めていきましょう。

健康問題に関するさまざまな情報が飛び交う中、正しい情報を取り入れ、適切な意思決定・行動選択ができるようになることが重要です。

第1学年	1単位	必修	教科書等：高校保健体育（ 出版）保健体育資料（ 出版）
<b>授業を通して目指すこと</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>心身の健康や安全に関心を持ち、意欲的に学習し、自ら健康で安全な生活を実践できること。</li> <li>健康・安全の意義を理解するとともに、解決に役立つ基礎的事項を理解し、知識を身に付けること。</li> <li>心身の健康や安全に関する課題を見つけることができ、課題の解決を目指して科学的に考えたり、多角的に捉えることにより、適切な意思決定や行動選択ができること。</li> </ul>			

### 授業の進め方や学び方についてのアドバイス

教科内の科目の系統や関連

- 保健は2年間を通じて学びます。また、体育との関連もとても重要です。
- 1年次（健康に対する考え方の確立 個人の健康） 2年次（集団の健康 社会環境を含めた健康）と内容が広がっていきます。
- 別に配られる保健体育科指導計画をみて、2年間の見通しを持ってください。

身につけたい学び方

- 保健にとっての「学力」とは、基礎的な知識のもとに意欲をもって「健康的な生活を実践する力」です。学習内容と日常生活を関連付けて、課題の解決を図りましょう。
- テレビや新聞などから健康問題に関するさまざまな情報があふれています。皆さんが間違った認識をもっていることも珍しくありません。情報を鵜呑みにすることなく科学的に学習することにより、正しい知識を身に付けましょう。
- 疑問をそのままにしてしまうことは、健康にとってとても危険です。進んで質問したり、積極的に調べたりして、解決してください。

授業を受けるにあたって守ってほしい事

- 教科書、学習ノートを必ず用意し、配布される資料やプリントはきちんと保存してください。
- 提出物は遅れず、忘れず確実に提出してください。
- ノートをとる際は、ただ板書事項を写すだけでなく、気づいたことや考えたこと、他の人や先生の発言の中から大切なことを記入するなど工夫してください。

### 評価について

下に示すように、みなさんの学力を様々な観点から総合的に判断して評価します。

評価の観点	評価の材料
<ul style="list-style-type: none"> <li>意欲的に学習に取り組んでいるか。</li> <li>身近な生活の中の健康問題に気づいているか。</li> <li>健康問題の解決のために、学習したことなどを参考に考えているか。</li> <li>健康の大切さを理解しているか。</li> <li>健康を保持増進するための基本的事項について理解しているか。</li> <li>健康問題の解決に役立つ知識を身に付けているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業態度の観察</li> <li>ノートやプリントなどの記述内容からの読み取り</li> <li>質問や発表の内容の聞き取り</li> <li>定期テスト、単元テスト、小テスト</li> <li>レポート など</li> </ul>

## 学習計画

### 第 1 学期

月	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	備 考
4	「保健」学習について	「保健」学習の意義や内容、評価の方法を理解します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の内容確認小テストを毎時実施します。</li> </ul>
	現代社会と健康 1 健康の考え方  わが国の健康水準と病気の傾向  健康のとらえ方	私たちが生きている現代社会の健康水準や健康のとらえ方について、また、個人の行動と社会の活動が、私たちの健康とどのようにかかわっているかについて学習します。	
5	健康と意思決定・行動選択 さまざまな保健活動や対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さまざまな健康指標からわが国の健康水準を理解します。</li> <li>・時代による病気の傾向の変化を理解し、現代の健康課題について考えます。</li> <li>・WHOの定義をもとに、生活の質や生きがいを重視する新しい健康観について理解します。</li> <li>・ヘルスプロモーションの考え方を理解します。</li> <li>・健康のためには適切な意思決定・行動選択が重要であり、そのために必要なことは何か考えます。</li> <li>・ヘルスプロモーションの理念に基づく、健康のための個人及び社会の活動について理解します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブレインストーミングにより健康について考えます。</li> <li>・単元テストの実施</li> <li>・ノートの提出</li> </ul>
	2 健康の保持増進と病気の予防  日常生活行動と生活習慣病 喫煙・飲酒・薬物乱用と健康	現代社会で健康に過ごすために、日常生活行動と生活習慣病との関係について正しく理解し、健康的な生活習慣を身に付け実践していくことが必要です。	
6	日常生活行動から生活習慣病をとらえます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・喫煙による短・長期的な健康への悪影響や、非喫煙者への影響、喫煙に対するさまざまな対策について理解します。</li> <li>・アルコールの人体への作用や過度の長期飲酒による健康への影響、飲酒に対するさまざまな対策について理解します。</li> <li>・薬物乱用による健康への悪影響や社会的問題、薬物乱用に対するさまざまな対策について理解します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロールプレイングを行います。</li> <li>・ビデオを視聴します。</li> <li>・単元テストの実施</li> <li>・ノートの提出</li> </ul>
	期末テスト 月 日 ( ) 時間目実施 (テスト範囲：教科書 P ~ P )		
7	5 応急手当	自分や他の人びとの命や体を守り、思わぬ事故や災害に対応できるよう、応急手当について、その意義や手順・方法を学びます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・期末テスト終了後の授業では、水泳の授業と関連させて、心肺蘇生法の実習を行います。</li> </ul>
	心肺蘇生法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心肺蘇生法の意義や手順を理解し、正しく行えるようになります。</li> </ul>	
<b>【課題・提出物等】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎時間ごとに、前時の内容について、小テストを行います。</li> <li>・ビデオ視聴の際にはプリントを配布します。視聴後に提出してください。</li> <li>・「人体の立体模型」作成を夏休みの課題とします。2学期最初の授業時に提出してください。</li> </ul>			
<b>【第1学期の評価方法】</b> 期末テスト及び2回の単元テスト、毎時の小テスト、ノートやプリントなどの記入状況、学習活動への参加状況などで、総合的に判断し第1学期の評価を行います。 応急手当については、2学期の評価に加えます。			

2年間、各学期の最初の授業で学習計画表を配付します。ファイルに追加してください。

## 家庭科「家庭総合」シラバス

<学科> 普通科	<学年> 1	<単位数> 4単位のうちの2単位
----------	--------	------------------

### 1 担当者からのメッセージ

国際化、情報化、科学技術の発展、環境問題、少子高齢社会の到来など、社会の状況が大きく変化する中で、あなたはどのような人生観、生活観、価値観をもって生きていこうと考えていますか。

この科目では、生活に関する知識や技術を身につける一方で、それらのもつ意味や在り方を人の一生との関わりの中で考えていきます。また、生活者としての立場から実際の生活を見つめ、課題を発見し、改善していけるような実践的な力を養うことを目的としています。知識や技術をしっかり身につけるとともに、自分の生活をより良いものに作りかえていく楽しさを感じてください。そして、「自分らしいライフスタイル」を探求し、より主体的に人生を送っていけるよう学習に取り組んでください。

### 2 学習の目標と評価の観点

- ・人の一生と家族、子どもの発達と保育、高齢者の生活と福祉、衣食住、消費生活などに関する知識と技術を総合的に習得します。
- ・身近な生活の中から課題を見出し、解決に向けて主体的に取り組める能力を養います。
- ・家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を身につけます。
- ・評価は 次の4つの観点から行います。

関心・意欲  
・態度

家庭や地域の生活に関心をもち、その充実向上を目指して意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身につけているか。

思考・判断

家庭や地域の生活について見直し、課題を見付け、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身につけているか。

技能・表現

家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な技術を身につけているか。

知識・理解

家庭生活の意義や役割を理解し、家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な知識を身につけているか。

### 3 主な教材の紹介

教科書 家庭総合( 出版)      副教材 資料集( 出版)

### 4 学び方についてのアドバイス

- ・この科目は1年生及び2年生で2単位ずつ学びます。1年生では家族や福祉、衣生活、消費生活の分野を中心に学びます。
- ・講義、調理実習、被服実習、コンピュータを活用した学習、擬似体験、シミュレーション学習、ディベート学習など様々な形態で授業を進めていきます。この中では、グループで活動することが多いので、協力して進めていくことを心がけてください。
- ・積極的、主体的に実験・実習や体験学習等に取り組ましましょう。その際、安全・衛生に配慮し、器具や材料の取扱いにも十分注意してください。
- ・授業で配布されるプリントやワークシート等の資料は、ファイルを活用して整理していきましょう。
- ・学習の中で習得した知識や技術は自分の実生活の中で活かしていきましょう。そして、生活の中から課題を発見し、改善計画を立て、実行する(ホームプロジェクト)学習にもつなげていくことを心がけましょう。

## 5 評価や成績についての確認事項

テスト（期末テスト、授業中に実施する小テスト等）、課題等提出物（ワークシートやレポート等）、学習活動への参加の態度などで評価します。

## 6 学習計画

シラバスに示した学習の進度や提出物を確認しましょう。  
小テストや期末テストの期日が発表されたら記入しましょう。

### 第 1 学期

主な学習項目	月	学習内容	主な学習活動
「家庭総合」の学習について		・学習の目標や内容、具体的な学習方法を理解します。	
1 人の一生と家族・家庭 (1) 人の一生と発達課題	4	・生涯発達の視点で各ライフステージの特徴と課題について理解します。	聞き取り調査 グループ発表
(2) 家族・家庭と社会	5	・青年期の課題である自立や男女の平等と相互の協力などについて考えます。	ディベート 個人レポート提出
		・現代の家族の特徴及び家庭の機能、職業労働と家事労働の意義や特徴、家族・家庭と法律などについて理解します。	新聞記事に関するレポート作成 個人レポート提出
(3) 生活設計	6	・家族・家庭の意義、家族・家庭と社会のかかわり、男女が協力して家庭を築くことの重要性について理解します。	家族法事例研究 ワークシート提出
2 子どもの発達と保育・福祉		・青年期の課題を踏まえ、生活設計の立案を通して、自己の生き方や将来の家庭生活と職業生活の在り方について考えます。	<小テスト> ロールプレイ 個人レポート提出
(1) 子どもの発達	7	・母体の健康管理と子どもの誕生、子どもの心身の発達と特徴及び子どもの生活と遊びについて理解します。	ライフコースの作成 個人レポート提出
		・子どもの発達と環境とのかかわりについて認識し、子どもと適切にかかわることができるようにします。	ビデオ視聴 ワークシート提出
		期末テスト ( 月 日 ) 教科書 p ~	
* 夏休みの課題についてのガイダンス			自分史の作成
<p>主な課題や提出物について（主な学習活動の ~ ）</p> <p>グループで活動します。インタビューをもとに各ライフステージの課題をまとめ発表します。グループで活動します。インタビューのテーマ（結婚・自立・性別役割分担など）について各グループで調べ討論します。ディベートで気づいたことをレポートにまとめ提出します。現代の家族の特徴及び家庭を取り巻く環境に関連して、興味を持った新聞記事をワークシートに添付し、記事を選択した理由と感想を記入し提出します。家族と法律について、いくつかの事例をもとに学習し、ワークシートにまとめ提出します。グループで活動します。自作のシナリオによりロールプレイを通して、男女が協力して家庭を築くことの重要性についてレポートにまとめ提出します。「私の生活設計」をレポート用紙3枚以内にまとめて提出します。視聴したビデオをもとに、子どもの心身の発達と生活や遊びについて、ワークシートにまとめて提出します。夏休みの課題です。聞き取り調査をもとに、これまでの自分の成長についてまとめ提出します。学習の発展として、適宜、ホームプロジェクトを実践し、その成果をまとめて発表します。</p>			

ホームプロジェクト

## 情報科「情報 A」シラバス

中学校の技術・家庭科で学んだ「情報とコンピュータ」を発展させた内容を扱います。  
コンピュータや情報通信ネットワークなどの活用を通して、情報を適切に収集・処理・発信するための基礎的な知識と技能を習得します。また、情報が社会に与える影響などについても考えます。

### 1 履修するに当たって

学 年	第 1 学 年		単 位 数	2 単 位
使用教材	教科書	情報 A 出版		
	副教材	情報 A 出版		
使用機器等	ハード	コンピュータ、プリンタ、デジタルカメラ、イメージスキャナ、プロジェクタ		
	ソフト	ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフト、ブラウザ、Web 作成ツール等		
授 業 に つ い て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報活用の実践力を養うために、総授業時間数の2分の1以上が実習の時間になります。</li> <li>・実習では発表や討論なども行います。</li> <li>・個別学習、グループ学習等いろいろな形態で学習を行います。</li> </ul>			
評 価 に つ い て	【評価の基本方針】 授業は実習を中心に進みますので、定期試験の成績ばかりではなく、実習の作品やレポート、生徒自身による自己評価、グループにおける相互評価なども参考に、これらを総合的に判断して評価します。			
	作 品	授業での制作物は作品として提出します。		
	レポ-ト	授業で扱う内容によっては、自分の考えをレポートとして提出します。問題意識を持って授業に取り組みましょう。		
	自己評価・相互評価票	発表会などで使用した自己評価票や相互評価票も評価の参考にします。		
	定期試験	教科書や問題集などから授業で扱った内容を中心に出题します。		

### 2 主な学習内容と学習のねらい

1. 問題を解決する様々な方法を学び、目的に応じて適切な解決の手順と方法の選択ができるようにします。
2. ネットワークやデータベースなどの活用を通して、必要とする情報を効率的に検索収集する方法を習得します。
3. 文字、音声、画像、動画などの多様な形態の情報を、コンピュータを使って効果的にまとめる方法について習得します。
4. 発表や討論を通して、プレゼンテーション能力や判断力を高めます。
5. 情報社会の特徴や情報の社会に与える影響等を知り、情報社会に参加するときの適切な行動・態度について実践を通して身につけます。



## 3 学習計画

学期	月	学習内容	学習活動	学習のアドバイス	提出物	
1 学 期	4	(1) 情報を活用するための工夫と情報機器 ア 問題解決の工夫  イ 情報伝達の工夫	グループ学習 「修学旅行計画を立てよう」 ・インターネットの情報検索 ・表計算ソフトで集計 ・発表資料の作成 ・班別発表会 ・相互評価	旅行行程表の作成を通して、これから情報の授業で扱う問題解決の技法を体験します。グループ学習なのでスキルの差は気にせず協力して取り組みましょう。	・旅行計画書 ・発表会資料 ・レポート	
	5	(2) 情報の収集・発信と情報機器の活用 ア 情報の検索と収集	個別学習 「インターネットの仕組み」 ・検索エンジンについて ・ホームページについて	検索エンジンやホームページの仕組みを理解し、効率よく情報の収集ができるようにしましょう。		
	第 1 学 期 中 間 試 験					
	6	イ 情報の発信と共有に適した情報の表し方	協同学習 「ネットワークの利用」 ・共有ファイルについて ・電子メールの仕組み ・ファイルの圧縮・解凍	実際にメールの送受信や共有ファイルを取り扱うことにより、ネットワークに適した情報の形態を考えましょう。	・電子メールと添付ファイル ・レポート	
	7	ウ 情報の収集・発信における問題点	グループ学習 「情報モラルと著作権」 ・情報モラルについて ・著作権について ・個人情報について ・班別発表会 ・相互評価	情報モラルと著作権について考えましょう。グループでの協議の後、自分の考えをレポートとしてまとめましょう。	・発表会資料 ・レポート	
	第 1 学 期 期 末 試 験					
						・自由課題
	【提出物】 1 作品（5作品） 2 レポート（3回）					
	【第1学期の評価方法】 中間試験と期末試験の成績、作品やレポートなどの提出物の内容、および学習活動への参加の仕方や態度などを参考に評価します。					

## 農業科「農業科学基礎」シラバス

この科目は農業を学ぶ最も基礎となる科目です。皆さんは、小学校や中学校で動物や植物を育てたことがあると思います。授業ではそうした体験を踏まえながら、作物の栽培や家畜の飼育を通して、その成長過程や栽培・飼育の技術について科学的にとらえられるように進めます。また、産業としての農業の役割や大切さを学びます。

農業の学習の意味を見いだすとともに、2・3年生での農業学習の基礎となる知識や技術を学ぶ科目ですので、自ら学ぼうという気持ちを持って積極的に授業に臨んでください。

### 1 農業の学習の中での位置付け

単位数	学年	学 科	区 分
4	1	農業系全学科	必 修 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">選択必修</span> 選 択

### 2 教科書等

教科書	農業科学基礎 「 出版」
補助教材	FFJ ノート（日本学校農業クラブ連盟）

### 3 次のことを目指して学習します

- ・農業の大切さや農業学習の意味を見だし、これからの農業学習に対する関心や意欲を高めます。
- ・農業学習の方法の一つである「プロジェクト学習」について学び、自ら考え、自ら問題を解決していく学習ができるようになります。
- ・作物の栽培や家畜の飼育を通して、生物を育てる基本的な知識と技術を身につけることができます。また、この科目で学習したことは、他の農業科目を学ぶ基礎となります。
- ・農業と自然・社会とのかかわりや環境の保全について学ぶことによって、私たちの暮らしの中での農業の役割や食料の供給などについて客観的に考えたり、意見を持ったりすることができるようになります。

## 4 学習の進め方や留意点

〔このように学習は進みます〕

- ・イネの栽培については、種まきから収穫までの実習を行います。
- ・イネの生育の仕組みや栽培管理の原理を学習します。そのため、生育に応じて、生育状況の観察と調査、周辺の環境計測などを行い、作物栽培を科学的に見る目を養います。
- ・ニワトリは孵化から成鳥になるまでの実習を行います。また、プロイラーの加工実習を行います。
- ・ニワトリの飼育をする中で、家畜の成長の仕組みや飼養管理の原理を学習します。発育にともない、発育状況の観察と調査、周辺の環境の計測などを行い、家畜の飼育について科学的に見る目を養います。
- ・イネの栽培やニワトリの飼育は、グループごとに研究課題を設定し、計画を作り、実施し、まとめを行うというプロジェクト学習法の手順にそって進めていきます。
- ・「私たちの暮らしと農業」では、今日的な統計情報や様々な意見をインターネットや書籍で調査したり、それをまとめて発表し議論したりする活動を通して、農業の社会的な意義や役割、問題点を見いだしていきます。

〔次のことに留意してください〕

- ・授業の半分以上が実習や実験となります。実習や実験は受け身の姿勢では何も身につけません。常に何かを学ぼうという意欲を持って積極的に参加してください。
- ・FFJ ノートは授業のプロジェクト学習の進め方にそってきめ細かに記録ができるようになっていきます栽培や飼育の学習では常に記録をすることが大切です。生育の様子や観察結果、作業の要点などは、デジタルカメラなどで撮影しておきましょう。
- ・作物や家畜は常に成長し、変化しているので、わからないことや疑問に思うことがあったらそのときに質問するようにしてください。

## 5 評価と成績について

評価は次の4つの面から行います

評価の4つの観点	内 容
関心・意欲・態度	・栽培・飼育や農業に関心を持ち、積極的に取り組んでいる。
思考・判断	・学習過程で生じる様々な問題を解決するために、手順や方法を工夫したり、意見を述べたりしている。
技能・表現	・栽培管理、飼養管理の基本的な技能が身についている。 ・プロジェクト学習の手順にそって栽培や飼育について記録し、まとめることができる。 ・私たちの暮らしと農業についての自分の意見を持ち、それを適切に発表できる。
知識・理解	・栽培技術、栽培にかかわる環境、作物の生育のしくみについて理解を深め、それに関わる専門用語を活用できる。 ・飼養技術、飼育にかかわる環境、家畜の生育のしくみについて理解を深め、それに関わる専門用語を活用できる。

定期テスト、実技テスト、FFJ ノートの記録（自己評価を含む）、課題の提出、実習や実験の取り組み状況等を総合的に評価し、成績とします

## 6 学習計画

## 第 1 学期

月	学習内容	学習のねらい	主な活動や課題、テスト等
4	<p>農業を学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>農業科学基礎で学ぶこと、学び方</li> <li>プロジェクト学習の進め方</li> <li>学校農業クラブ活動の参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>農業学習の意義や学び方について理解し高校生活で農業を学んでいく方向性を見いだす。</li> <li>農業科学基礎の授業内容や進め方について理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>意見発表会 各自の栽培飼育の体験や農業学習に対する考え方をまとめ発表する。</li> </ul>
5	<p>栽培の基礎 イネの栽培を通した プロジェクト学習</p> <p>1 イネ栽培のプロジェクトの課題設定と計画 2 種まきと苗の管理</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>イネ栽培に関するグループごとの課題の設定とプロジェクトの計画をする。</li> <li>イネの種子から発芽、育苗期の生育や栽培管理について理解する。</li> <li>苗の形態とよい苗を育てる仕組みを理解し育苗期の管理の仕方を身につける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>プロジェクトの計画</li> <li>実験（種子の構造と発芽の条件）</li> <li>実習（よい種の選び方）</li> <li>実習（種まき）</li> <li>観察（苗の形態とよい苗の診断）</li> <li>実習（育苗管理）</li> </ul>
	<p>3 本田の準備と植付け</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本田の準備の手順と作業の意味を理解し本田の準備までの技術を身につける。</li> <li>植付けの方法と留意点を理解し、植付けの技術を身に付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実習（施肥と本田の準備）</li> <li>観察（肥料の種類と成分）</li> <li>観察（根の形態とはたらき）</li> <li>実習（植付け）</li> <li>生育調査（週 1 回）</li> </ul> <p>&lt; 中間テスト &gt; 主にイネの種まきから本田の準備と植え付けについて理解しているかどうかを問う。</p>
6	<p>4 植付け後の管理</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本田における生育前期の管理として、水管理、追肥、病害虫と雑草の防除について理解し、管理作業を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実習（水管理と追肥）</li> <li>観察（葉の形態とはたらき）</li> <li>実験（栄養診断）</li> <li>生育調査（週 1 回）</li> </ul>
7	<p>5 一学期のまとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループごとに、プロジェクトの記録をもとに 1 学期の活動と成果のまとめを行い、今後の課題を明らかにする。</li> </ul>	<p>&lt; 期末テスト &gt; 主にイネの植え付け後の管理について理解しているかを問う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>実習（除草と薬剤散布）</li> <li>観察（病害虫と雑草）</li> <li>生育調査（週 1 回）</li> <li>プロジェクトの中間まとめ（レポート）</li> </ul>
<p>夏休みの出校日と内容</p> <p>7月30日 内容 生育調査 観察（花芽の分化と幼穂の形態、栄養診断） 実習（追肥、雑草防除、水管理）</p> <p>8月20日 内容 生育調査 観察（穂と花の形態、花粉の形態、生育後期の病害虫） 実習（病害虫の防除、水管理）</p>			

プロジェクト学習は 4 人ずつのグループを編成し、次の例のような課題を設定して、計画にそって実施します。

[ テーマの設定例 ] : 「化学肥料を使わないイネづくり」「水田は水をきれいにするか」  
「田んぼの雑草の種類を調べる」

# 工業科「工業技術基礎」シラバス

この科目は、各専門学科の学習を進める前に工業の各分野の基礎的技術を学習します。幅広い技能を身につけ、工業に関する広い視野を養います。

## 内容・レベル

- ・中学校技術家庭科の技術分野を発展させた内容です。
- ・機械分野、電気分野、化学分野、建築分野、情報分野等の基礎的技術を体験します。進路とのかかわり
- ・各専門学科共通に履修します。
- ・将来の工業技術者として身につけてほしい技能です。

単位数：3単位

履修学年：1学年

教科書：工業技術基礎 社

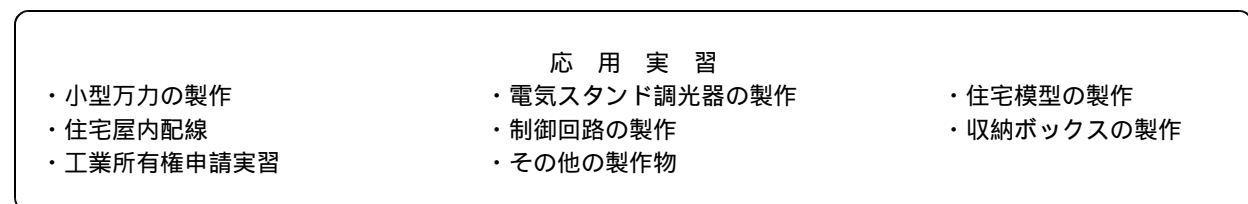
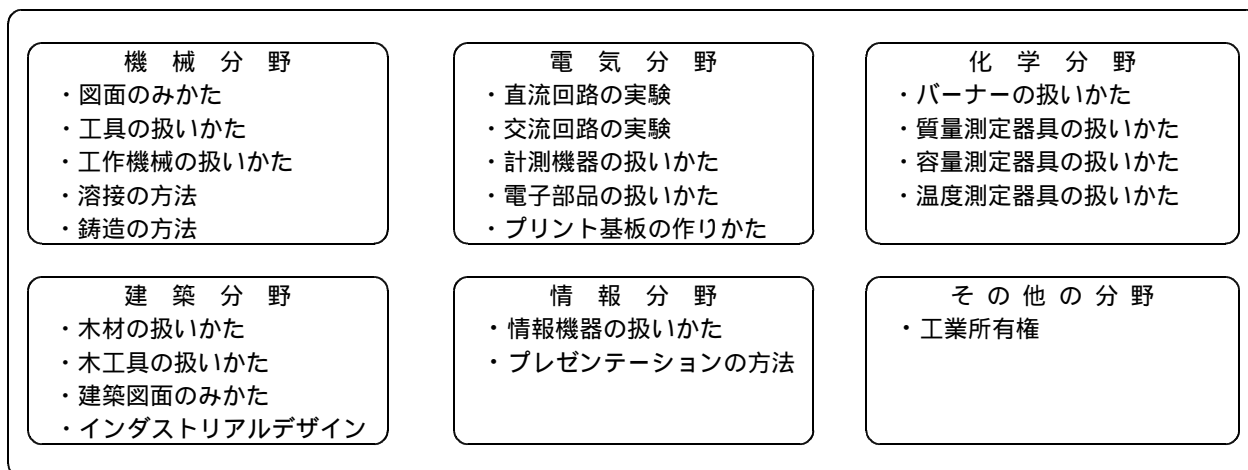
## 1 主な学習内容と到達目標

- 実験・実習を通して、工業の各分野の基礎的技術を体験します。
- 事故防止につとめながら安全に作業を行うための規則やルールを学びます。
- 実験・実習の方法、内容及び結果をより理解するために、報告書の作成を学びます。

## 2 学習方法

〔学習の進め方〕

- 班やグループで学習を進めますので、互いに協力しながら作業を行います。
- 実験・実習を中心に学習を展開します。
- 各専門学科に応じて、各分野の基礎的技術を選択しながら進めていきます。
- 基礎的技術の体験後、応用実習に進みます。



### 3 評価の観点及び評価方法

〔評価の観点〕

評価の観点	評価項目
意欲・関心・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習活動に積極的に参加しているか。</li> <li>・安全作業に適した服装をしているか。</li> <li>・互いに協力しながら、作業を行っているか。</li> </ul>
思考・判断	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内容を理解して、実験・実習を行っているか。</li> <li>・工具、工作機械や測定機器を適切に判断し、使用しているか。</li> <li>・事故防止のための規則・ルールを守り、実験・実習を行っているか。</li> <li>・工具、工作機械を適切に使用し、工作物の加工ができているか。</li> </ul>
技能・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・測定機器を適切に使用し、正しい測定ができたか。</li> <li>・報告書を作成できたか。</li> <li>・製作物を完成できたか。</li> </ul>
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・報告書を作成することにより、内容・結果を理解できたか。</li> <li>・各分野の基礎的技術を体験し、理解できたか。</li> </ul>

〔評価方法〕

- ・上記の観点を基に評価します。
- ・班やグループで学習を進めるので、自己評価・相互評価を取り入れます。
- ・出席状況や報告書の提出状況、作業状態、製作物などを総合的に評価します。

### 4 学習計画

計画例 学科名： 電気電子科

学期	学習内容	週	学習の到達目標
1	安全管理について	1	・実験・実習における事故防止のための規則を理解する。
	機械分野の基礎的技術 ・Vブロックの図面作成	4	・計測機器を用いてVブロックを測定できる。
	・鋼板の切断、ヤスリかけ 穴あけ作業	3	・第3角法の描き方を学び、Vブロックの図面を作成できる。
	・丸棒の加工	3	・各種機械工具の扱い方を身につける。
	・突合せ継手のアーク溶接	1	・旋盤の扱い方を身につける。 ・アーク溶接の作業法を身につける。
2	電気分野の基礎的技術 ・直流回路 交流回路の測定 ・ハンダ付け	4	・直流電圧計、直流電流計、回路計、オシロスコープ装置の扱いができる。
	・ハンダ付け	1	・ハンダごて、ハンダ、プリント基板の扱い方を身につける。
	建築分野の基礎的技術 ・住宅模型の製作 ・木工工具の扱い方	2	・スチレンボードを加工し、2階建て住宅を製作できる。
	・かんな、のみ、曲尺の扱い方を学び、木材の加工ができる。	1	
3	その他の分野 ・工業所有権	3	・工業所有権の種類、インターネットによる特許出願検索ができる。
	応用実習 ・住宅屋内配線	4	・器具取り付け、電線接続法、部材鑑別法等屋内配線工事を行うための基礎技術を身につける。
3	・制御回路の製作	6	・PICマイコンを利用したライントレーサ装置の製作ができる。 ・プログラミングの加工ができる。
	成果発表会	2	・製作した制御回路(ライントレーサ装置)の成果を発表できる。 ・情報機器を活用し、プレゼンテーションの方法を工夫しながら発表できる。

## 商業科「ビジネス基礎」シラバス

### 教科担当者からのメッセージ

商業科に入学して、みなさんはどのような内容を勉強するのが不安があると思います。その不安を取り除き、商業についての学習の指針を示すのが科目「ビジネス基礎」です。

高校の商業には、流通ビジネス、国際経済、簿記会計、経営情報の四つの分野があります。この科目は、みなさんがこれから学ぶ四つの分野の基礎的な科目として位置付けられています。商業を学ぶ目的や学び方、卒業後の進路などについてのガイダンスを行い、商業についての理解を深め、ビジネスの諸活動に適切に対応する能力と態度を育てる科目です。

また、簡単なビジネス英会話に慣れ親しむために、毎時間5分程度、英会話を取り入れて授業を行います。

### 授業を受ける心構え

ビジネスに対する心構えやマナーを身につけるために、課題意識をもって積極的に授業に参加しましょう。まず、あいさつや言葉づかい、時間や約束を守るといった基本的なことから心掛けましょう。

また、国際化に対応するためにも語学力が必要です。英語が苦手な人も嫌がらずに積極的に授業に参加し、コミュニケーション能力を高めましょう。

## 1 カリキュラムの位置付け

単位数	学年	学 科	区 分
3	1	商業科全学科	<b>必修</b> 選択必修 選択

## 2 こんな教材で学習します

教科書	ビジネス基礎( 出版)
補助教材	ビジネス基礎 ワークブック( 出版)

## 3 このような力を身につけます

- ・ 経済社会の動きに興味・関心を持ち、自分自身の将来や進路の実現の第一歩を踏み出すための基礎的な能力を養います。
- ・ レポートの書き方やプレゼンテーションの技法を身につけます。
- ・ ビジネスの基礎的・基本的な事象が分かるようになり、商業や経済関係の新聞記事やテレビのニュースなどが理解でき、ビジネスの動向に対する視野や考え方が広がります。
- ・ 電卓やパソコン等を使用し、ビジネスに関する計算能力を高めます。
- ・ 簡単な英会話に親しみながら、円滑なコミュニケーション能力を身につけます。
- ・ 経済社会の一員として必要とされる望ましい人間関係、社会性及び倫理観など豊かな人間性を身につけます。

## 4 評価と成績について

評価は次の4つの面から行います。

評価のポイント	
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ビジネスの諸活動に広く関心を持ち、その意義や役割の理解及び諸問題の探求を目指して、自主的・主体的に学習に取り組んでいるか。</li> <li>・ 経済社会の一員としての望ましい心構えや態度を身につけているか。</li> <li>・ 自己実現に向けて意欲的に取り組んでいるか。</li> </ul>
思考・判断	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ビジネスの諸活動に関する諸問題の解決を目指し、自ら思考を深めようとしているか。</li> <li>・ 学習した基礎的・基本的な知識と技術を活用し、ビジネスに関する諸問題に対して適切に判断し、創意工夫する能力を身につけているか。</li> </ul>
技能・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ビジネスに関する基礎的・基本的な技術と望ましい心構えを身につけているか。</li> <li>・ 書籍やインターネット等を活用し情報を収集し、自主的・主体的に情報を取捨選択し、活用できる技能を身につけているか。</li> </ul>
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ビジネスに関する基礎的・基本的な知識を身につけ、経済社会におけるビジネスの意義や役割を理解しているか。</li> <li>・ コミュニケーションの方法やその心構え及び日常よく用いられる英会話に関する基礎的・基本的な知識を身につけているか。</li> </ul>

以下の評価方法によって、総合的に評価し成績とします。

評価方法	
観察	授業への取り組む姿勢・態度、活動状況を観察します。
ノート	板書事項をきちんと記入することはもとより、重要な用語等を自主的に記入し、わかりやすいように整理・工夫しているかを確認します。(年6回程度)
発問・発表	授業中の発問に対し、自らの考えを整理して発表できているかを確認します。また、発表会(年3回程度)を実施し、課題に対する自己の考えをどう表現しているかについて、教員の評価以外に「生徒の自己評価」、「生徒の相互評価」を取り入れます。  【生徒の自己評価】 グループの討議やプレゼンテーション等の活動について、討議に臨む姿勢やその活動内容、発表者としての印象や自身で設定した評価ポイントについて自らが評価を行います。 【生徒の相互評価】 プレゼンテーション等の活動について、聞き手側の生徒が客観的な評価を行います。
ペーパーテスト	中間・期末テストなどの定期テストや小テスト(月1回程度)を実施します。
作品	作品や制作物を作製し提出してもらいます。(年3回程度)
レポート	単元のまとめやテーマごとに定期的または随時、レポートを提出してもらいます。(年3回程度)

## 5 学習計画

### 第1学期

月	学習内容	学習のねらい	主な活動や課題、テスト等
4	1 商業のガイダンス (1) 商業を学ぶ目的と学び方 ア ビジネスの基礎・基本と学ぶ目標  (2) 商業の学習分野 ア 学習分野と内容 イ 将来のスペシャリスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>ビジネスの基礎・基本の具体的内容を学ぶことにより、より実践的な能力と態度を身につけます。</li> <li>これから学習する商業科目の内容について理解を深めます。</li> <li>商業科目の主体的な学習方法や生涯学習の必要性を理解します。</li> <li>商業の学習分野と資格取得との関係や卒業後の進路について考察していきます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシート(私の履歴書)の作成</li> <li>ワークシート(人生設計)の作成</li> <li>インターネットを活用した進路学習</li> </ul>
5	2 経済生活とビジネス (1) ビジネスの役割 ア 家計・企業・政府 イ 役割と事例  (2) ビジネスの発展 ア ビジネスの発展と経済環境の変化 イ 新たなビジネスへの課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>経済を支えるしくみと家計、企業、政府の関係について理解します。</li> <li>日本のビジネスの発展について、国際化、情報化、サービス化、科学技術の進展と関連して理解します。</li> <li>新たなビジネスの創造についても理解を深めます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小テスト</li> <li>グループ研究及び発表「日本のビジネスの発展」について</li> <li>レポート「商業科3年間の目標」の提出</li> </ul>
6	(3) ビジネスに対する心構え ア 豊かな人間性と創造性 イ 起業家精神と企業経営に関する理念	<ul style="list-style-type: none"> <li>【中間テスト 月 日( )】 テスト範囲</li> <li>望ましい人間関係、豊かな人間関係と主体性、自己責任の概念、創造的な能力を身につけることの重要性について理解します。</li> <li>起業家精神や企業経営に関する理念やビジネスに対する望ましい考え方について理解します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>p. ~ p.</li> <li>レポート「新たな商品のアイデアの考案」</li> <li>実習「身近な小売商調査」</li> <li>小テスト</li> </ul>
7	3 ビジネスと流通活動 (1) 経済活動と流通 ア 流通の意義と役割  (2) 流通活動の特徴 ア 小売業の業種・業態の変化と流通  (3) 流通活動と企業 ア 企業の経営組織  1学期の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>生産・流通・消費という経済の仕組みを通して流通の意義や役割を理解します。</li> <li>生活水準の向上や生産の高度化によって生産と消費の隔たりが大きくなり、流通の役割が大きくなっていることについて理解します。</li> <li>流通の機能を取り上げ、流通活動全体に共通する経済的特徴を、小売業の業種、業態の変化との関わりで理解します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人研究「生産と消費の隔たり」について</li> <li>調査「小売業の業種、業態」について</li> <li>p. ~ p.</li> <li>株式会社についてのビデオ視聴</li> <li>自己評価票に記入し、1学期を振り返ります。</li> </ul>

国際化に対応するために、毎時間5分程度、英語によるコミュニケーションを実施します。



## 総合的な学習の時間「産業社会と職業」シラバス

わたしたちの生活は、地域の様々な産業、職業などによって支えられています。国際化が進む現在の日本の産業のしくみや仕事の様子がどのように変わっているかを、地域の中での体験活動を通して自ら課題を決めて調べます。

主な活動は？

### 【情報から学ぶ】(情)

インターネットや新聞などから情報を収集し、産業や職業の現状を把握します。

例) 産業構造、企業の組織、経営のしくみ、職業、求人、職業適性、資格

### 【人とのかかわりから学ぶ】(人)

産業界や地域の人々との交流を通して学びます。

例) 職業人による講話、ロールプレイによる演習・実習等

### 【社会から学ぶ】(社)

個人テーマを設定し、職業人インタビュー、職業体験などを通して研究を進め、その成果をまとめます。(研究レポート作成)

例) 「産業社会や職業と自己の関わりに関する研究」

進路とのかかわりは？

- ・ 1学年で作成した進路設計プランを見直し、進路希望を明確にします。
- ・ 職業体験など体験的な学習は、就職や進学の際の面接やAO入試などの場に役立ちます。また、将来、社会人としての生きていくための自覚を高めるきっかけとなります。
- ・ 情報の収集・整理、課題研究のまとめは、就職や進学の作文や小論文に取り組むのに役立ちます。
- ・ 自分で考え、課題を追究し、まとめる学習のスタイルに慣れておくことは、将来、仕事をする際や、大学や専門学校での学問に取り組む際にたいへん役立ちます。

### 1 単位数・履修学年(学科・類型・コース)など

単位数	学年	学科・類型・コース	区分		
1	2	文型	必修	選択必修	選択

### 2 主な教材

テキスト	副教材(購入が必要な教材)
産業と人間(本校自作テキスト)	進路ノート 社

### 3 学習のねらい

インターネットや新聞などから、社会、産業、職業に関する情報を収集・整理し、自分なりの意見をまとめる方法を身につけます。  
生活と産業との関わりから産業社会全般についての基礎的な理解を深め、働くことの意義について考え、職業意識を高めます。  
現代における産業の発展のようすや、これからの産業の動向に目を向けながら、進路選択について考え、進路意識を高めます。

### 4 評価について

教科の学習のように数値化した成績は示しませんが、学習活動のまとめりにアドバイスカードを渡しますので学習を進める際の参考にしてください。  
ワークシートや研究レポートはファイルにまとめ、それぞれのまとめりに学習活動の振り返りを行い、自己評価します。グループごとの研究発表では、生徒同士の相互評価も行います。

### 5 学習計画

学習を進める際に重視してほしいこと

- ・産業社会や職業に対して、関心や課題意識をもち、課題追究のためのテーマを探す。
- ・友だち同士でアイデアや意見を出し合っ、課題に取り組む。
- ・さまざまな職業について理解を深めたり、そのよさを探したりする。
- ・将来の生き方について、自分なりの考えを表現したりまとめたりする。
- ・学習の過程で気づいたことや学んだことを進路選択や決定に生かす。

学期	月	学習の内容・学習活動		学習活動のアドバイス	
		学習活動のテーマ (ワークシート、研究レポート)	学習の場面・方法 (情報・人・社会)		
1 学 期	4	<b>【学び方のガイダンス】</b> (1) オリエンテーション ・「産業や職業の今を知ろう」 ・「世の中のことを調べる方法を身につけよう」 (ワークシート1)	← インターネット (情) ガイダンス(担任)	社会で起こっていることが、身近な産業や職業とどのような関わりをもつか、考えや意見をまとめ発表します。  それぞれの立場やとらえ方の違いに気づき、意見を出し合います。  (アドバイスカード1 生徒)	
			← 地元の小売店の経営者 (人) 講話の司会(生徒) 司会・進行(担任)		
			(自己評価カード1)		ガイダンスやアドバイス(担任)
	5	(2) オリエンテーション ・講話「産業と職業」 ・ロールプレイ「産業と職業」 ・経営者、労働者、消費者の立場での話し合い (ワークシート2)	← インターネット (情) ・資料		自分の研究テーマに合った職業や産業を選びます。  自分の注目した業界、企業の情報を収集し、資料にまとめます。 研究テーマを決めたり、計画を立てたりします。
			← インターネット (情) ガイダンス(担任)		
			← 企業で働く卒業生 企業の研修担当者 (人) 司会(生徒) 進行(担任)		
6	(自己評価カード1)	ガイダンスやアドバイス(担任)	講話や実習で気づいたことをメモにまとめます。  職業体験をお願いする企業をリストアップします。  (アドバイスカード2 生徒)		
2 学 期	7	<b>【個人の研究テーマの決定】</b> (3) 個人の研究テーマの選定 ・職業レディネステスト ・「自分が注目した職業を3つあげよう」 ・「自分の注目した企業についてリサーチしよう」 (ワークシート3) ・個人の研究テーマ設定 (研究計画カード)	← 企業で働く卒業生 企業の研修担当者 (人) 司会(生徒) 進行(担任)	自分の意見やアイデアを記録カードに書きとめ、それらを計画や実施に生かします。 体験学習を通して、気づいたことも記録カードにまとめます。	
			← 各事業所 (社) ガイダンス(各事業所担当者)		
	9	(4) 社会人に学ぶ ・講話「各業界で働く職業人」 ・実習「社会人としてのマナー講座」 (ワークシート4)	← 各事業所 (社) ガイダンス(各事業所担当者)		
			(5) 研究グループの編成・打合せ  (自己評価カード2)		ガイダンスやアドバイス(担任)
10	(自己評価カード2)	ガイダンスやアドバイス(担任)	(アドバイスカード2 生徒)		
11	<b>【体験学習と研究のまとめ】</b> (6) 研究グループごとの職業体験 ・模擬実習、計画書作成 ・聞き取り調査項目の検討 ・あいさつ状の作成 事前の職場訪問、聞き取り ・職業体験 (職業体験記録カード) ・事業所への報告書・礼状作成	← 各事業所 (社) ガイダンス(各事業所担当者)	(アドバイスカード2 生徒)		
		← 各事業所 (社) ガイダンス(各事業所担当者)	(アドバイスカード2 生徒)		

学 期	12	<p>(7) クラスの研究発表会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究レポート作成</li> <li>・グループごとの発表</li> <li>・個人ごとの学習の振り返り (研究レポート提出)</li> </ul> <p>(自己評価カード3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 相互評価を含む</li> <li>・クラス代表グループの選出</li> </ul>	<p>生徒による司会 生徒による全体講評</p>	<p>発表しやすいように研究レポートをまとめます。</p> <p>グループ内で、お互いの発表や取り組みのよい点を評価します。</p>
	1	<p>(8) 学年の研究発表会</p>	<p>ガイダンスやアドバイス (担任)</p>	<p>(アドバイスカード3 生徒)</p>
	3	<p><b>【将来設計・進路設計】</b></p>		
	2	<p>(9) 将来設計</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「10年後の私と職業」 (ワークシート5)</li> </ul>		<p>これまでの学習を振り返りながら進路決定に向けて、夢や希望を表現したり、達成に向けたプランを作成します。</p>
3	<p>(10) 進路設計(1年次の修正)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「進路と学習の計画」 (ワークシート6)</li> </ul> <p>(自己評価カード4)</p>	<p>ガイダンスやアドバイス (担任)</p>	<p>(アドバイスカード4 生徒)</p>	